

安息日聖書教科



ヤコブの生涯からの教訓

Vol. 96 No.3

2020年7月-9月

目次

1. 初期の生活	5
2. 長子権を買う	10
3. 長子権を奪う	15
4. ベテル	20
5. 持続する愛	26
6. 貪欲の悪	31
7. 偶像礼拝者を後にして	36
8. 祝福を切望する	41
9. ヤコブの悩みの時	46
10. 家庭における改革	52
11. 家族における実	57
12. 辛抱強い祈りの結果	62
13. イスラエルの残りの民のための希望	67

セブンスデーアドベンチスト
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A.)

安息日聖書教科 Vol.96, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071

埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Good Salt on the
front cover; Map Resources
on pp. 4, 25, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

おそらく、ヤコブの生涯からわたしたちの学ぶことのできる最大の教訓は、祈りの甚大な力でしよう。この父祖の経験は、人類の弱さを、また十字架につけられ、よみがえられた救い主の計り知れない同情を明らかにしています。ヤコブの歴史は今日と非常に関連しています。

「悩みが来る時、ヤコブのようになる人が何と多いことであろう。わたしたちはそれを敵の手と思うのである。そして暗やみの中で力が尽きるまで盲滅法に戦うのである。そして慰めも救いも見いだせない。夜明けにヤコブに触れた神のみ手は、彼が格闘していたのは契約の天使であることを明らかにした。泣きながら力尽きたヤコブは、彼の魂が慕い求めている祝福を受けるために、無限の愛のふところに倒れ伏した。わたしたちはまた試練は益をもたらすことを学び、主のこらしめを軽んじることなく、主に責められる時、気落ちしないように学ぶ必要がある。」(祝福の山 14)

「サタンは、人生の小事に忠実でなくても神はそれを見すごされるというふうによくの人々に信じこませる。しかし、神は、悪を是認も黙認もなさらないことが、ヤコブを扱われた方法によって示された。罪の弁解をして隠そうとするもの、そして罪を告白せず許されないまま、天の記録に罪を残しておく者は、みな、サタンに打ち負かされる。彼らがりっぱなことを言い、榮譽ある地位にあればあるほど、彼らの行為は、神の前にいまわしく、大いなる敵は確実に勝利を取める。

しかし、ヤコブの生涯は、罪に陥っても真に悔い改めて神にたち帰る者を、神は見捨てられないことを証明している。ヤコブが、自分の力をふるって獲得できなかったものを得たのは、自己降伏と堅い信仰によってであった。こうして、神は、彼の熱望した祝福を与え得るものは神の能力と恵みだけであることを教えられた。最後の時代においてもこれと同様である。彼らは危険に当面し、絶望に陥るとき、ただ、贖罪の功績だけに頼らなければならない。われわれは自力では何もできない。全く無力で無価値なわれわれは、十字架につけられ復活された救い主の功績に頼らなければならない。そうするかぎり、だれひとり滅びることはない。われわれの罪の長い暗黒の記録は、無限の神の目の前におかれている。帳簿は完全である。われわれの罪は、一つとして忘れ去られてはいない。しかし、昔、神のしもべの叫びに耳を傾けられた神は、信仰の祈りを聞いて、われわれの罪を許される。神は約束された。そして、神は約束を守られるのである。」(人類のあけぼの上巻 220, 221)

「わたしたちは一度嘆願を捧げたあとに、そこで止めてはならない。かえって、ヤコブが一晩中み使いと格闘した後に行ったように、『わたしを祝福してくださいなら、あなたを去らせません』と言いなさい。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1884年5月15日)

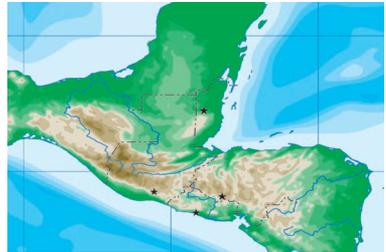
世界総会安息日学校支部

第一献金

中央アメリカ北部ミッションプロジェクトのために

中央アメリカは、山間部に湿気の多い海岸沿いの平地があり、多様な生態系のうち7%が生息しています。この地域は、熱帯雨林や、バナナ、メロン、さとうきび、米、コーヒー、また野菜などの商品を輸出する商業的な大農場で有名です。

SDA改革運動の働きが中央アメリカの北部に入ったのは、神様の恵みでした。1960年代にグアテマラ（最近の人口は約1700万人）に、そして1970年にエル・サルバドル（現在6,300万人以上）にメッセージが伝えられました。この国の両方もスペイン語を公用語として、公式な宗教は



ローマ・カトリックです。およそ375,000人の人口がいるベリーズには（主な宗教はやはりカトリックで、ほとんどの人が英語を話す）、1992年に伝えられました。

これらの三つの国々は、パナマ、コスタリカ、ニカラグア、ホンジュラスを統合して中央アメリカ連合が形成されたとき、1997年まで世界総会ミッションフィールドとして運営されていました。2015年10月の中央アメリカ代表集会のときに、この地域の働きを分散し、ホンジュラス連合と二つのミッションフィールドの組織化に道を開きました。すなわち、グアテマラ、エルサルバドル、ベリーズを含む中央アメリカ北部ミッション、またコスタリカ、パナマ、ニカラグアを含む中央アメリカ南部ミッションです。

中央アメリカ北部ミッションにおいて、わたしたちは1,016.98平方キロメートルの土地の献品をもって非常に祝福され、そこに非常に大望を抱いた事業を発展させたいと願っています。わたしたちの天父の助けをもって、このお方の栄光のために、わたしたちの本部と運営施設、伝道学校、また集会ホールの建物です。

そこで世界中のすべての親愛なる皆さんに、中央アメリカ北部ミッションのための第一安息日献金が集められるときには、この建設事業が結実できるように、惜しみなく援助してくださいようお願いいたします。価値ある援助を皆さんに感謝し、神様がその素晴らしい祝福を、献金されるすべての人に与えてくださるようお願いいたします。

中央アメリカ北部ミッションの皆さんの兄弟より

初期の生活

「わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。わたしをあなたの戒めから迷い出させないでください。」(詩篇 119:10)

「〔神は〕全くへりくだってご自分の許へ来て、心を尽くしてご自分を求めるすべての魂に、ご自身を表してください。」(クリスチャン教育の基礎 531)

参考文献： 教育 299-310

日曜日

6月28日

1. イサクとリベカ

- a. 何が、妻の死後、年を取った父祖アブラハムの子孫に対する熱心な信仰を表していますか(創世記 24:1-4, 7)。
- b. アブラハムの僕は、どのようにイサクの妻となるためにリベカを選んだ際の神のお導きを説明しましたか(創世記 24:42-51, 58)。
- c. この結合の幸福から何を学ぶことができますか(創世記 24:63-67)。

「イサクは神への恐れのうちに従順の生涯へと訓練されてきた。そして彼が40歳になったとき、神を恐れ経験のある自分の父の僕が自分のためになした選択に服した。彼は自分の妻を得ることに関して、神が導いてくださることを信じた。

今、15歳から20歳の子供たちは、一般的に自分の両親の同意なしに、自分で自分自身の選択をするだけの能力があると考えている。そして、彼らは神を恐れて行動し、その問題を祈りの主題とするように提案されると、驚いて見つめるのである！イサクの時のことが、後の世代に、子供たちが、特に神を恐れると公言する人々が模倣すべき模範として記録に残されている。」(霊的賜物 3巻 112)

2. 苦闘

- a. 新しい夫婦はどのような試練に直面しましたか。またイサクの年の記録に基づくと、どれくらいの間ですか (創世記 25:20, 21 (前句), 26 (後句))。
- b. イサクの信仰はどのように報われましたか (創世記 25:21)。
- c. リベカは身ごもった後、どのようなひどく動揺する経験をしましたか。また彼女はそれに対して、どうしましたか (創世記 25:22)。
- d. リベカはなぜ、そのような経験をされたのですか。また彼女は何を理解させられましたか (創世記 25:23, 24)。

「神は始めから終わりをご存じである。このお方はヤコブとエサウの誕生前から、彼らがどのような品性を発達させるようになるかを両方ともご存じであった。このお方はエサウがご自分に従う心を持たないこともご存じであった。このお方はリベカの困惑した祈りに答えて、彼女に双子を生むようになること、また兄が弟に仕えるようになることを知らされた。このお方は彼女の二人の息子の将来の歴史を彼女の前に提示された。それは彼らが二つの国家となり、一人が他の一人より大きくなり、兄が弟に仕えるようになるというものであった。」(預言の霊 1 巻 105, 106)

- e. 双子のうちの初めの子を描写しなさい (創世記 25:25, 27 (前句))。彼のような落ち着きのない精神は、どのように不満へと向かいがちですか (箴言 27:20)。

「エサウは、自分を楽ませることを好み、ただ現在のことばかりに心を奪われて成長した。」(人類のあけぼの上巻 189)

「幸福は利己的な満足のうちには見いだされない。しなければならぬ務めを果たしていくことのなかにこそ幸福がある。」(家庭の教育 209)

3. 対照的な個性

a. 双子の弟は、誕生の時に、何をしましたか (創世記 25:26 (前句))。

b. 双子の弟の品性を描写しなさい (創世記 25:27 (後句))。

「ヤコブは、思慮深く、忠実で用心深く、現在のことよりは将来のことを考えていたので、家において家畜の世話をしたり、土を耕したりして満足していた。」(人類のあけぼの上巻 189)

c. 親は自分たちの二人の息子たちに、どのように関わっていましたか (創世記 25:28)。

「〔エサウ〕は、束縛に耐えられず、自由奔放な狩りを楽しみ、早くから獵師の生活を選んだ。しかし、彼は父親の気に入っていた。物静かで、平和を愛する牧羊者は、長子の勇気と活気に心をひかれた。エサウは、恐れることなく、山やさばくを歩き回って、父親に獲物を持って帰り、心おどる冒険談を話して聞かせるのであった。…母親は、〔ヤコブ〕の忍耐力、儉約の精神、先見の明などを高く評価した。ヤコブの愛情は深く強かった。そして、彼の物静かで根気強い思いやりの精神は、エサウの荒々しい、時おりの親切よりは、彼女により大きな幸福感を与えた。リベカにとって、ヤコブはいとしいむすこであった。

まずアブラハムに与えられ、そして、そのむすこに確証が与えられた約束は、イサクとリベカの心の大きな願いであり希望であった。エサウとヤコブは、その約束をよく知っていた。」(人類のあけぼの上巻 189, 190)

d. 昔は、なぜ誕生の順番がそれほど重要だったのですか (出エジプト 13:12)。

「長子の霊的特権には、…家族の指導権と父の富の二人前が与えられることになっていた。」(同上 195)

4. 態度の問題

- a. ヤコブについての両親の見解を別にして、神は彼をどのようにご覧になっていましたか。またなぜでしたか（詩篇 47:4; マタイ 5:6）。
- b. 真に神を切望するときに現れる経験の深さを描写しなさい（ヨブ 23:11, 12; 詩篇 119:10）。

「あなたの心が、かわいているように神を慕い、生ける神を慕ってくだかれるようにしよう。……ヤコブのような不屈の信仰と、切に求めてやまぬエリヤの精神をもって、神の約束なさったことが全部与えられるように求めなさい。」（キリストの実物教訓 128, 129）

- c. ヤコブの態度にある時代を超えたどの原則が、靈性と品性という観点からみて、ヤコブの方が宗教心のない兄よりも長子権にふさわしいことを表していましたか（ローマ 13:14）。

「〔エサウとヤコブ〕は、長子の特権を非常に重要なものと考えるように教えられていた。というのは、それが、ただ単にこの地上の富の相続だけでなく、靈的に優位が与えられることをも含んでいたからである。それを受けるものは、家族の祭司となり、その子孫からこの世界の贖い主が出ることになっていた。一方、長子の特権を受けたものは責任も負わされた。祝福の継承者は、彼の生涯を神の奉仕にささげなければならなかった。彼は、アブラハムのように、神の要求に従順でなければならなかった。結婚、家庭関係、公の生活などで、彼は、神のみこころをうかがわなければならなかった。……

長子の特権を受けるのは、長子のエサウであることを言明した。しかし、エサウは献身を好まず、宗教生活を送る気持ちがなかった。彼にとって、靈的な長子の特権に付随した要求は、好ましくないというよりはやっかいな制限とさえ思われた。アブラハムと神との契約の条件であった神の律法は、奴隷のくびぎのようにエサウには思われた。彼は放縦を好み、ただ自分の欲するままにふるまう自由を望むだけであった。彼にとって、権力と富、飲食と宴楽が幸福なのであった。彼は、なんの束縛もない奔放な流浪の生活の自由を誇った。」（人類のあけぼの上巻 190）

5. 無限のものを切望する

a. ヤコブの思想はどこに焦点が合っていましたか(コリント第二 4:18)。

「ヤコブは、長子の特権が自分に与えられるという神の告示を母親から聞き、なんとかしてその特権を自分のものにしたいという言葉には表現できない願望に満たされた。彼が渴望したのは、父親の富を所有することではなかった。彼が願い求めたものは、霊的長子の特権であった。義人アブラハムのような神との交わりにはいり、家族のために犠牲をささげ、選民と約束の救い主の先祖となり、契約の祝福に含まれている永遠の嗣業にあずかることなどが、彼の熱心に求めてやまない特権であり、誉れであった。彼の心は常に将来のことに向けられ、目には見えない祝福を得ようと努めていた。……

彼は、霊的祝福について、父親が語るすべてのことをひそかな願いをいだいて聞き入った。そして、母親から聞いたこともたいせつに心に秘めていた。彼は、日夜そのことばかり考えていたので、それが彼の生活の最も重大な関心事となった。」(人類のあけぼの上巻 191)

b. なぜヤコブの人生における優先順位が、今日、わたしたちを鼓舞すべきなのです(詩篇 42:1; 119:11)。

「世界はかつてみられなかったような緊張につつまれている。娯楽に、金もうけに、権力争いに、生存競争に、心も魂も肉体も恐るべき力にひきずられている。このたけり狂うあらしのさなかに神は静かにお語りになっている。神はわれわれにその中から出て神と交われと仰せになっている。『静まって、わたしこそ神であることを知れ』(詩篇 46:10)と神は仰せになっている。』(教育 307)

個人的な復習問題

1. 伴侶を選ぶことに関して、わたしたちは父祖たちから何を学ぶことができますか。
2. リベカの二人の息子に関して、彼女に与えられた霊的な洞察を説明しなさい。
3. ヤコブとエサウの個性には、どのような対比が存在していましたか。
4. ヤコブが深く望んだのは、長子権のどの部分でしたか。
5. 今日、非常に強い度合いで気を散らすものがあるただ中で、わたしたちは何を考えなければなりませんか。

長子権を買う

「わたしは命じる、御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。」(ガラテヤ 5:16)

「自分の食欲と生活習慣を自然の法則へ順応させるのは、わたしたちの義務である。」(聖化された生活 29)

参考文献： 教会への証 2巻 37-50

日曜日

7月5日

1. 品性の発達が必要とされている

- a. 何かに対して、強い願望があるとき、自分では悪いものだと思わなくても、何を悟る必要がありますか(箴言 19:21)。

「[ヤコブ] は日夜[長子権の] ことばかり考えていたので、それが彼の生活の最も重大な関心事となった。しかし、ヤコブは、このように現世の祝福よりは永遠の祝福を尊重はしたが、まだ彼の敬う神について体験上の知識はなかった。彼の心は神の恵みによって新たにされていなかった。彼は、兄が長子の権利を保持するかぎり、自分に関する約束は実現し得ないと思った。そして、彼は、兄が軽視しても自分には非常に貴重なその祝福を確保しようと、絶えず策略をめぐらしていた。」(人類のあけぼの上巻 191)

- b. ヤコブは自分の生涯のこの段階において、何をすべきでしたか。またわたしたちも、いつも何を覚えているべきですか(詩篇 37:5-7)。

「権利を守るために、神の時を忍耐強く待つことが難しく思えるときがある。しかし、わたしは、もしわたしたちが短気になるならば、豊かな報いを失うことを示されてきた。」(教会への証 3巻 327)

2. 完全に誘惑された

a. ヤコブはどのようにしてエサウの弱さを利用しましたか (創世記 25:29-31)。

「ある日、エサウが狩りから疲れ果てて帰ってきて、ヤコブが煮ていた食物を要求した。ヤコブは、始終このことばかりを考えていたので、この機を逸せず、長子の特権とひきかえに兄の飢えを満たそうとした。」(人類のあけぼの上巻 191)

「ヤコブはエサウの必要を自分自身の利益に引換える機会として用いた。そしてもし彼が自分の長子権をみな主張することをやめるならば、彼にあつものを与えようと申し出た。」(霊的賜物 3 巻 114)

b. ヤコブの考えは賢かったにもかかわらず、なぜ自分の誘惑された兄に対する彼の賢い策略は神の御目に理想的な計画ではなかったのですか (箴言 3:29)。

「[神のみ言葉は] 商業上の取引においては、いっさい相手の側に自らを置き、自分のことだけを考えず、他人のことを考えるように教えられている。自分を益するために他人の不幸を利用し、あるいは他人の弱点や無能力によって自分の利益を求める人は、神のみ言葉の原則も誠命も破るものである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 163)

c. エサウはどうしようと決心しましたか。それはなぜですか (創世記 25:32, 33)。

「[エサウは]、非常に長い間自分を喜ばせてきたので、魅力的で欲しくなるような食物に背を向ける必要を感じなかった。」(教会への証 2 巻 38)

「彼はそれについて考え、自分の食欲を制する特別な努力を払わず、ついに食欲の力が他のすべての判断を押さえつけてしまい、彼を支配するに至った。そして彼はもしその特別な食物を得ることができなければ、非常な不都合を被り、死をさえ被ると想像した。彼がそれについて考えれば考えるほど、彼の願望は強くなり、彼の長子権は、非常に聖なるものであったが、その価値も神聖さも失うに至った。彼はもしそれを今売っても、簡単に買い戻せると思った。彼はそれをお気に入りの食べ物と交換し、好きなようにそれを処分することも買い戻すこともできるとうぬぼれた。」(同上 38, 39)

3. 非常に高価な一口のごちそう

- a. ヤコブがその長子権と引き換えに食べ物を提供したときにエサウがした性急な決定から、どの警告に注意を払うべきですか (創世記 25:34)。

「一杯の赤いあつもので〔エサウ〕の長子の特権をゆずり渡し、誓ってその取り引きを確認した。今少し待てば父の天幕で食物を得られたのに、彼は、自分の一時の欲望を満たすために、神ご自身が、彼の父祖たちに約束された栄光ある相続権を軽々しく手放した。彼は、ただ現在のことだけに興味を持った。彼は、地上のもののために、天のものを、一時の快樂のために未来の幸福を犠牲にしてしまうのであった。

『このようにしてエサウは長子の特権を軽んじた』(創世記 25:32,34)。彼は、それを譲渡して一種の解放感を味わった。もう彼には何のじゃまものもなかった。好きかってができた。こうした気ままな楽しみや、誤った自由のために、なんと多くの人が今もなお、清く汚れない天の永遠の嗣業をつぐ相続権を売り渡していることであろう。」(人類のあけぼの上巻 191, 192)

- b. わたしたちはエサウの遺産に関する神の警告から、何を理解しなければなりませんか (マラキ 1:2, 3; ローマ 9:13, 14)。

「神が独断的選択を行ない、エサウを救いの祝福から閉め出されたというようなことはない。神の恵みの賜物はキリストによって、すべての者に分け隔てなく与えられている。人間が減じるのは、自分自身の選択によるのであって、そのように選ばれたのではない。神は、み言葉の中に、すべての魂が永遠の命に選ばれる条件をお示しになった。それは、キリストを信じる信仰によって、神の戒めに従うことである。神は、神の律法と一致した品性を選ばれるのであるから、だれでも神の要求される標準に達する者は、栄光の王国にはいることができる。……

おそれおのいて自分の救いを達成しようとする者はみな選ばれている。武器をまとして、信仰のよき戦いをする者は選ばれている。目をさまして祈り、み言葉を研究し、誘惑からのがれる者は選ばれている。常に信仰を持ち、神のみ口から出るすべてのことばに従おうとする者は選ばれている。贖罪に必要なことがらすべての者に無代で与えられている。贖罪の成果は、条件に応じる者に与えられる。」(同上 226, 227)

4. 自分の食欲を制御する

- a. 神は栄養を感謝できるように食欲を与えてくださいました。しかしなお、食欲について他に何を理解する必要がありますか（コリント第一 6:19）。

「人の一つ一つの部分が守られるべきである。わたしたちは胃に入れるものが、思いから高く聖なる思想を追い出してしまうことがないように、気をつけるべきである。

ある人々は、わたしたちが知的に食し、自分たちのすべての習慣を神が打ち立てられた法則に合わせる必要を彼らの前に提示すると、あたかも彼らから非常に良いものを奪おうとしているかのように、わたしは好きなようにしてはいけないのでしょうかと尋ねる。

わたしたちの体は自分自身のものではない。好きなように扱い、衰えさせる習慣によって機能を損ない、神に完全な礼拝を捧げることができなくなるようにしてよいものではない。わたしたちの命とあらゆる機能は、神に属するものである。」（キリストを映して 138）

- b. クリスマスの思いがどのように健康でいつづけるかを説明しなさい（ローマ 8:1-6）。

「体力を減退させるものは、なんであつても、精神を弱め、善悪の識別力を弱める。だんだん善を選ぶ力がなくなり、正しいと知りつつ、それを行なう意志の力がなくなる。

身体の諸機能を誤用するならば、神の栄光のために用いることができるはずの寿命をちぢめ、神からゆだねられた仕事を果たすことができなくなる。悪い習慣をつづけたり、夜ふかしをしたり、健康を犠牲にしてまで食欲を満足させたりすることは、体を虚弱にする原因である。運動を怠ったり、心身を過度に疲れさせたりすると、神経系統の平衡が失われる。このようにして、自然の法則を無視したために寿命をちぢめ、奉仕ができなくなった人びとは、神に対して盗みの罪を犯している。彼らは、また、同胞からも盗んでいることになる。他を祝福する機会、すなわち神がこの世界に彼らをお送りになったたいせつな仕事を、自分自身で短縮してしまった。…こうして、わたしたちが有害な習慣のために、世界から善を奪うときに、神はわたしたちに有罪の宣告を下されるのである。

肉体の法則に反することは道徳律に反することである。神は、道徳律の創設者であると同時に、肉体の法則の創設者でもある。」（キリストの実物教訓 322, 323）

5. キリストを通しての勝利

- a. ヤコブがエサウに誘惑するような食物を提示したにもかかわらず、なぜエサウは自分自身の選択の責任があるのですか (ヤコブ 1:14, 15)。
- b. 抑制されていない食欲の要求に対して、勝利する鍵は何ですか (ガラテヤ 2:20; 5:16, 24, 25; コリント第一 15:57)。

「誘惑の恐ろしい力を知り、放縱な生活に導く欲にひかれ、『わたしは悪に勝てない』と、多くの人が絶望の叫びをあげる。しかし、それはできることであり、また勝たなければならないことであると告げなさい。今までに何回も負けたかもしれないが、しかし、最後までそうとはかぎらない。それは罪の生活習慣によって支配され、道徳力が弱くなっているからである。この人の約束や決心は砂でできた綱のようなものである。約束を破り、誓いを無視したことを知っているため、自分の真実に対する自信は弱まり、神は自分を受け入れ、自分の努力を助けられることはできないと考える。しかし絶望する必要はない。

キリストにたよる者は先天的、また後天的な習慣や癖にとらわれていてはならない。低級な性格にしばられず、いっさいの食欲、情欲を支配すべきである。わたしたちが有限な力で悪と戦うのを神は放置しておかれない。悪に対する先天的、後天的な傾向がどうであれ、神が与えようとしておられる力によって、わたしたちは勝利することができるのである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 150)

「罪の生活から純潔な生活へと立ち上がろうとがく、ひとりひとりのために、『わたしたちを救いうる名は、これを別にしては天下のだれにも与えられていない』唯一の名の中に大きな力の要素が宿っている (使徒行伝 4:12)。」(同上 154, 155)

個人的な復習問題

1. どのような意味において、エサウをわなにかけるヤコブの策略は、信仰の欠如を表していましたか。
2. 敵がエサウを誘惑したように、今日わたしたちを誘惑するいくつかの方法を上げなさい。
3. 今日、どれほど多くの人が、本質的にエサウと同じ過ちを犯していますか。
4. なぜ永遠のために準備をしているわたしたちは、真剣に自分の食欲を制さなければならないのですか。
5. 食欲に対して苦闘しているすべての人は、どのように希望があることに気づくことができますか。

長子権を奪う

「あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろう。」(ルカ 21:19)

「義務のための忍耐、信仰、そして愛こそ、わたしたちが学ばなければならない教訓である。」(教会への証 5巻 70)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 191-197, 227, 228

日曜日

7月12日

1. 心を表す一歩

a. 大いに親の悲しみとなったエサウのどの行動が、神の事柄に関心が欠如し続けていることをさらに表しましたか(創世記 26:34, 35)。

「エサウは、ただ単なる外のかたちとこの世的の魅力にひかれて、ヘテ人のふたりの娘を妻にめとった。彼らは偽りの神の礼拝者であった。そして、その偶像礼拝はイサクとリベカを非常に悲しませた。エサウは、選民と異邦人との雑婚を禁じる誓約の条件の一つを犯した。」(人類のあけぼの上巻 192)

b. 今日、神の民はどのように不信者と結婚することに対して同様に警告されていますか(コリント第二 6:14, 15)。

「不信者と結合することはサタン側に身をおくことである。神の霊を悲しませ、その守りを失ってしまう。永遠の生命のための戦いにおいて、こういう不利な条件に甘んじることができるだろうか。」(青年への使命 443, 444)

「衝動と自分自身の聖化されていない情欲に屈し、自分の妻として不信者を選び、もし彼女が結婚してくれるなら安息日をあきらめると約束して、神のご要求を明け渡す人は、自分の家族に不幸をもたらす一歩を取っている。彼は自分の長子権を一杯のあつもののために売っているのである。」(原稿別冊 10巻 192)

2. 頑なにたくらむ

- a. イサクが年を取り、目がかすんだとき、彼はエサウに関してどのような計画を持っていましたか(創世記 27:1-4)。

「イサクは、長子の特権を〔エサウ〕に与える決意を変えなかった。リベカの説得も、ヤコブの祝福に対する強い希望も、エサウのその義務に対する無関心も、父の意志をひるがえす力はなかった。

何年かが経過し、イサクは年老いて目がかすみ、死期が近づいたので、長子に祝福を与えることをもはや延ばすべきではないと思った。しかし、リベカとヤコブの反対を知っていたので、彼は厳粛な儀式をひそかに行なおうとした。こうしたときには、ふるまいを設ける習慣であったので、老父は、『野に出かけ、わたしのために、しかの肉をとってきて、わたしの好きなおいしい食べ物を作り、……わたしは死ぬ前にあなたを祝福しよう』とエサウに命じた(創世記 27:3, 4)。(人類のあけぼの上巻 192)

- b. イサクの計画に対抗するためのリベカの計画は何でしたか(創世記 27:5-10)。

「リベカは、〔イサク〕が何をしようとするかを読みとった。彼女は、それが神のみこころの啓示とは相反することを確信した。イサクは、神の怒りを招く危険にさらされていた。そして、神が召された地位に弟むすこをつかせまいとしているのであった。彼女は、イサクを説き伏せようとしたがむだだったので、策略を用いる決意をした。

エサウが狩りに出かけると、すぐにリベカは自分の考えの実行にとりかかった。彼女は、ヤコブに事の次第を話し、その祝福がついにしかも決定的にエサウに与えられるのを防止するために、すばやく行動する必要があることを告げた。もしヤコブが、母親の指示に従えば、神の約束通りに祝福を受けることができると彼女は保証した。」(同上 194)

- c. ヤコブは、どのように自分の母親の考えに応じましたか(創世記 27:11, 12)。

「ヤコブは、〔リベカ〕の考えた計画に、直ちに同意はしなかった。父親を欺くことは大きな苦痛であった。このような罪は、祝福ではなくてのろいをもたらすものだ」と彼は感じた。」(同上)

3. のろわれた祝福

- a. ヤコブは気が進まなかったにもかかわらず、彼の母親はどのように彼が長子権を得るための彼女の計画を主張しましたか (創世記 27:13, 14)。

「〔ヤコブ〕は、良心の声にさからって母親の言葉に従い始めた。」(人類のあけぼの上巻 194)

- b. 計略がどのように実行されたかを描写しなさい (創世記 27:15-19)。

「〔ヤコブは〕あからさまのうそを言うつもりではなかったが、ひとたび父の前に出てしまうと引きさがるわけにいかなくなった。」(同上)

- c. 結果は何でしたか (創世記 27:20-29)。

「〔ヤコブ〕は、不正手段によって熱望した祝福を手に入れた。」(同上)

- d. エサウが到着したとき、何が起こりましたか (創世記 27:30-33)。

「ヤコブが父の天幕を去ると、すぐ、エサウがはいってきた。エサウは、長子の特権を売り渡し、その取り引きを厳粛な宣誓によって、確認はしたが、彼は、今弟がなんと言おうと祝福を獲得しようと決意した。長子の霊的特権には、物質的特権も含まれていて、家族の指導権と父の富の二人前が与えられることになっていた。彼が高く評価したのは、こうした祝福であった。」(同上 195)

- e. エサウの将来はどのようなものとなるはずでしたか。また彼はどのように反応しましたか (創世記 27:34-40)。

4. より高い展望を見る

- a. すべての人がイサクの死はすみやかに近づいていると思ったにもかかわらず、どのようにわたしたちは実際にイサクが死ぬまでに多くの年月が経過したことがわかりますか(創世記 25:26; 35:28 参照)。このことから、わたしたちはみな何を学ぶべきですか。

「ヤコブとリベカは、目的を達したものの、彼らの詐欺行為によって得たものは、苦悩と悲哀だけであった。神は、ヤコブが長子の特権を得るであろうと言われたのであるから、神が彼らのためにそうしてくださるのを信仰をもって待つておれば、神の言葉は、神ご自身がよいと思われるときに達成されたことであろう。しかし、今日神の子であると公言する多くの人々のように、彼らはこの事を主の手にゆだねようとしなかった。」(人類のあけぼの上巻 194)

- b. 神は欺瞞について、わたしたちが価値があり正当だと認められる目的のためだと考えるように誘惑されるときでさえも、何と言われますか(詩篇 101:7; 箴言 20:17)。
- c. リベカとヤコブの過ちから、わたしたちは何を拾い集めるべきですか(ルカ 21:19)。

「出来事を取り決められるお方である神に信頼する代わりに、〔リベカ〕は父親を欺くようヤコブを説得することによって自分の信仰の欠如を表した。このことにおいてヤコブの取った行動は神の認可を受けていなかった。リベカとヤコブは、欺瞞の助けを借りることによって、あらかじめ言われていた出来事を実現しようとする代わりに、神ご自身のご計画を、ご自身の方法で、ご自身の時に実行していただくようこのお方を待つべきであった。もしエサウが父親の祝福、すなわち長子に与えられた祝福を受けたとしても、彼の繁栄はただ神からのみもたらされることができたのである。そして彼は繁栄をもって祝福されたであろう。あるいは彼の行動に従って、逆境に置かれたであろう。もし彼が神を愛し、敬神の念を抱いたならば、アベルのように、彼は神に受け入れられ、祝福されたはずであった。もし邪悪なカインのように神にも神の戒めにも敬意を持たず、自分自身の墮落した道に従ったならば、神からの祝福を受けることなく、カインのように神から拒まれたことであろう。もしヤコブのとった道が義なる道であれば、もし彼が神を愛し、恐れるならば、たとえ彼が一般的に長子に与えられる祝福と特権を得なかったとしても、彼は神から祝福され、神の繁栄のみ手が彼と共にあったことであろう。」(霊的賜物 3 巻 115)

5. エサウの苦悩を避ける

- a. わたしたちはエサウの苦悩を避けるために、どのように警告されていますか（ヘブル 12:14-17）。

「エサウが長子権を売った状況は、不義な者、すなわち自分のためにキリストによって買われた贖いにほとんど価値を認めず、自分たちの天への相続権を朽ちる宝のために犠牲にしてしまう人々を表している。多くの人々が自分の食欲によって支配されており、不健康な食欲を否定するよりは、高く価値のある報酬を犠牲にするのである。もし墮落した食欲の満足か、あるいは自己を否定し神を恐れる者だけに神が約束された高い天来の祝福のいずれかを明け渡さなければならないとすれば、エサウの時のように、大抵は自己満足のために食欲の要求が打ち勝ち、事実上、神と天が蔑まれるのである。…

特に墮落した情欲は、天にほとんど価値を認めない人々の思いを支配する。健康は犠牲にされ、知的能力は弱められ、エサウが自分の長子権を売ったように、天がこれらの娯楽のために売られてしまう。エサウは向こう見ずな人であった。彼はヤコブが長子権を持つようにと厳粛な誓いをした。この事情が、他の人々のために警告として記録に残されている。エサウが自分の属するはずであった祝福をヤコブが得たと分かったとき、彼は軽率にそれを売らなければよかったと大いに悩んだ。彼は自分の軽率な行為を悔いたが、事態を收拾するには遅すぎた。神の日における罪人たちも同様である。彼らは自分の天への相続権を、利己的な満足や有害な欲と引き換えに渡してしまった。彼らはそのとき、エサウのように涙をもってそれを入念に探すかもしれないが、悔い改めの余地を見出さないのである。」（霊的賜物 3巻 116, 117）

- b. そうであれば、わたしたちの厳粛な誓いは何であるべきですか（コリント第二 7:1）。

個人的な復習問題

1. なぜ神は不信者と結婚することを、はっきりと禁じておられるのですか。
2. リベカはどのような意味において、強い霊性でありながら弱い信仰を表しましたか。そしてわたしの生涯のどの分野において、同じことをする危険があるかもしれませんか。
3. ヤコブのどのような最初の一步が、彼を不可能な罠にかけましたか。
4. なぜ、神の御目には、「目的は手段を正当化する」ということわざが誤っているのですか。
5. なぜ食欲は、クリスチャンの勝利において、これほど決定的な要素なのですか。

ベテル

「そして〔ヤコブ〕は恐れて言った、『これはなんという恐るべき所だろう。これは神の家である。これは天の門だ。』」（創世記 28:17）

「わたしたちのうちだれでも最終的に救われるとすれば、それははしごの段につかまるように、イエスにしがみつくことによってである。」（教会への証 5巻 539）

参考文献： 教会への証 4巻 464-469, 471

日曜日

7月19日

1. 自分の命のために逃亡する

- a. エサウは自分が長子権を失い、弟に渡ったことを悟った後、何をしようと決心しましたか（創世記 27:41）。
- b. エサウの怒りから、次男を守るために、リベカはヤコブに何をしよう助言せざるを得ませんでしたか。そして、時の長さは、彼女が期待していたことと、どのように異なる結果になりましたか（創世記 27:42-45）。

「リベカはヤコブに与えた誤った勧告を苦渋のうちに悔い改めた。なぜなら、それは彼を彼女から永遠に別れさせる手段となったからである。彼は自分の命のためにエサウの怒りから逃れなければならなかった。そして彼の母親は二度と彼の顔を見ることはなかったのである。」（霊的賜物 3巻 115, 116）

- c. イサクは長子権に関する理解において、最終的にどのように成熟しましたか。

「イサクはヤコブに祝福を与えて後、長年にわたって生きた。そして、エサウとヤコブのとった道から、祝福は正式にヤコブに属することを確信した。」（同上 116）

2. 真面目と孤独

- a. 長子権の相続人として、ヤコブを不本意に送り出しながら、彼の両親は、どのように賢明で霊的な訴えをしましたか（創世記 27:46; 28:1-5）。

「エサウの怒りに生命をおびやかされて、ヤコブは逃亡者となって父の家を出た。しかし、彼は、父の祝福をたずさえていった。イサクは、契約の約束をヤコブにもう一度くり返し、彼がその相続者であるから、メソポタミヤの母方の家族のなかから妻をめとるように命じた。」（人類のあけぼの上巻 198）

- b. なぜ、このような種類の訴えが、今日も強く必要とされているのですか（マタイ 24:37, 38）。

「今日、結婚関係はどうであろうか。それはノアの時代ほどにさえ、ゆがめられ、汚されていないであろうか。」（原稿リ-ス7巻 56）

「サタンは青年を神のご目的をくじく結婚関係を形成するように導くにあたり、あらゆる策略を用いる。彼は霊性と聖潔の標準を下げようとする。こうして教会が生きたく働く教会でなくなり、その教会員が神のみ事業において働くのにふさわしい者でなくなるためである。」（同上 12巻 283）

- c. 家庭の安全から出て遠くへ旅をしなければならなくなったとき、彼がどのような種類の経験に苦しんだかを描写しなさい（創世記 28:10; 詩篇 102:6-8）。

「ヤコブは、深く物思いに沈んでさびしい旅に出かけた。彼は、ただ一本のつえをたよりにして、荒々しい遊牧の民の住んでいる原野を何百キロも旅しなければならなかった。彼は後悔と恐怖に襲われ、怒った兄につけられないように人目を避けていた。彼は、神が彼に与えようとした祝福を永遠に失ったのかと恐れた。そして、サタンは、そばで彼を試みるのであった。

二日めの夕方、彼は父の家から遠く離れたところに来ていた。彼は、自分が放浪の身に陥ったことを感じた。そして、この苦しみは、すべて、自分のまちがった行為の結果であることを悟った。絶望の暗黒が、彼の心におしかぶさり、祈ることすらできなかった。」（人類のあけぼの上巻 198）

3. 絶望、その後に希望

a. ヤコブの夜はどのようなものでしたか(創世記 28:11)。

「〔ヤコブ〕はその極度の寂しさのなかで、これまでになかったほどに神の保護の必要を痛感した。彼は、涙を流して深く恥じ入り、罪を告白し、自分が全く見捨てられていないという確証を願い求めた。それでも彼の重い心は軽くならなかった。彼は全く自信を失い、祖先の神は彼を見捨てられたのではないかと感じた。」(人類のあけぼの上巻 198, 199)

b. わたしたちの将来が暗く、陰鬱に見えるとき、なぜヤコブの神によって励まされることができるのですか(詩篇 20:1-3; イザヤ 57:15)。

「神はヤコブを見捨てられなかった。神のあわれみは、なお、罪深い不信のしもべに注がれていた。」(同上)

「どんな時にも、どんな場所でも、どんな悲しみにも、どんな苦しみにも、前途が暗く将来が困難に見えて無力と孤独を感じるときにも、信仰の祈りに答えて、助け主が送られる。この世のすべての友から離れるような事情が起こるかもしれない。しかしどんな事情もどんな距離もわれわれを天の助け主から離れさせることはできない。どこにしようとも、どこへ行こうとも、主はいつもわれわれの右にあって、力づけ、助け、ささえ、励まされる。」(各時代の希望下巻 154)

c. ヤコブが眠りにつくと、何が起こりましたか。それは何の目的のためでしたか(創世記 28:12)。

「自分の家庭から出た流浪者としてのヤコブの経験、すなわち神秘的なはしごの上に、天の使たちが下ったり上ったりするのを示されたことは、救いの計画に関して偉大な真理を教えるために計画されたものであった。神のご目的が、失望した人、すなわち神と人から切り離されたと感じている人に明らかにされた。驚くばかりの愛のうちに、キリストは夢の中で命の道を彼の前に提示された。彼の前に真理が象徴のうちに彼の前に開かれた。そして、その意味は彼の時代と同様、わたしたちの時代にも大いなるものである。」(ビュー・アンド・ワールド 1890年11月11日)

4. 柔かな者への保証

- a. 天の神は、ご自分の悔い改める子の上に、どの恵み深い約束を降らせてくださいましたか(創世記 28:13-15)。

「神の御座からの輝きがこのはしごの上を下へ向かい、地上に言うに言われぬ光を反映した。このはしごはキリストを象徴している。このお方が地と天の間の通信を開かれたのである。

キリストはそのへりくだりのうちに、墮落した人類への同情と哀れみのうちに、人間の苦悩という一番の深みにまで下ってこられた。それはヤコブに、はしごの端が地についていることで表された。一方、はしごの天辺は天に届いていることによって、無限のお方をつかみ、ひいては地を天へ、有限な人間を無限の神へ結びつけているキリストの神聖な力を表している。キリストを通して神と人の間の通信が開かれた。御使たちは天から地へ愛のメッセージをたずさえて墮落した人類へと往来し、救いを受け継ぐべき人々に奉仕することができるのである。天来の使命者が人に奉仕できるのは、ただキリストを通してのみである。」(闘争 46)

- b. 夢をそれほど意味深いものにしたのは何でしたか(詩篇 37:11; ペリピ 2:5-7)。

「地よ、喜べ、世界の住民よ、祝え。キリストが罪の設けた深淵に橋をかけ、地と天を共に結びつけられたから。主の贖われた者たちのために、大路が敷かれた。重荷を負って疲れている人々はこのお方のみ許へ来て、自分の魂に休息を見出すことができる。旅人は主がご自分を愛する者たちのために用意しに行かれた住まいへ向かって旅をすることができる。

人性をまとうことによって、キリストは地の上にはしごを固く据えられた。はしごは最高の点にまで到達している。そして神の栄光がその頂上から輝き、はしご全体を照らしている。その一方、御使たちは、神から人へのメッセージを、人から神への嘆願と賛美をたずさえて往来している。

神性を通して、キリストは御父と一つであられた。そして人性を取られることによって、このお方はご自分を人と同一視された。…〔ペリピ 2:6, 7 引用〕。ヤコブの幻の中で、キリストのうちに人性と神性の結合が表されていた。

御使たちがはしごの上を往来しているとき、神はご自分の御子の功績のゆえに人の子らを恩寵をもって下を見ておられるお方として表されている。」(ビュー・アソド・ハラド 1890年11月11日)

5. ヤコブの厳粛な誓い

- a. ベテルにおけるヤコブの誓いは、わたしたちにとってどのように鼓舞するものとなりますか (創世記 28:16-22)。

「ヤコブはここで、神と取り引きをしようとしているのではなかった。主は、すでに彼に繁栄を約束しておられた。だからこの誓いは、神の愛とあわれみの保証に対する感謝として彼の心からあふれ出たものであった。」(人類のあけぼの上巻 201)

「ヤコブは、恵みの露によって清新にされ、神のご臨在と保証によって活力を得て、誓いをなした。神聖な栄光が過ぎ去った後、彼は、わたしたちの時代の人々のように誘惑にあった。しかし、彼は自分の誓いに忠実であり、自分のなした誓いから解放される可能性について考えを抱くことはなかった。彼は、多くの人が今なすように、この啓示は単なる夢であって、自分の誓いをなした時には高揚しすぎていた、であるから、守る必要はないと理由づけることもできたであろう。しかし、彼はそうしなかった。…

ヤコブは自分の持っていたすべてのものの十分の一を捧げた。そして什一の使用を計算し、彼が異郷の地において、自分の誓いを果たすことができなかつた間に自分自身のために用いた分の利益を主にお捧げした。これは大きな金額であったが、ためらわなかつた。これは神に誓ったものであり、自分のものだと考えなかつた。主のものとして考えたのである。」(教会への証 4 巻 466, 467)

「われわれの評価はなんと低いことであろうか。はかり知れない愛と想像に絶する価値ある賜物に答えるに当たって、われわれの時間や金銭や愛を、数学的法則によって測ろうとすることはなんとむなしいことであろう。キリストのために、十分の一なのであるか。これほどの価値あるものに対して、ああ、なんと僅少で恥ずかしい返礼であろうか。カルバリーの十字架から、キリストは全的献身を求めておられる。われわれの持ち物も、われわれ自身も、すべてを神にささげなければならない。」(人類のあけぼの上巻 202)

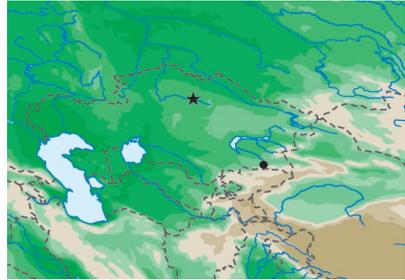
個人的な復習問題

1. リベカが被った苦い経験を、わたしはどのように避けることができますか。
2. ヤコブのように、孤独に苦しむとき、わたしたちは何を思い出さなければなりませんか。
3. ヤコブの夢を通してわたしの天父は、わたしに何を表しておられますか。
4. 御使たちがはしごを上ったり下ったりするとき、何が起こりますか。
5. わたしはどのようにして、神に対するヤコブの誓いによってもっと深く心を動かされることができますか。

第一安息日献金

カザフスタン、アルマティの本部のために

カザフスタン共和国はユーラシア大陸の中心にある人口 1800 万人の国家で、小部分はヨーロッパに属し、大部分はアジアに属しています。カザフスタンは面積で言えば世界で 9 番目に大きな国で、ロシア、中国、キルギスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、そして、カスピ海に面しています。公用語はカザフ語です。主な宗教はイスラム教で、人口の 70% が公言しています。次いで 26% がクリスチャン（大多数がオーソドックス）、そして残り 4% がユダヤ教、仏教、または無神論者です。首都はアスタナですが、170 万人いる最大の都市はアルマティで、かつてはアルマ・アタ、もしくはヴェルニーとして知られていました。



カザフスタンにおける改革のメッセージは 1920 年代に始まりました。しかし、「鉄のカーテン」の背後にある深刻な困難に直面し、兄弟たちは世界総会とほとんど何のつながりも持っていませんでした。ソビエト連邦の崩壊後、ほとんどの人はロシアとドイツへ去りました。

今やぶどう畑のこの部分で神のみ働きが復活すべき時です。膨大な課題がありますが、ここでの働きは決して止まりませんでした。孤立した教会員たちを除いては、わたしたちの信徒たちのほとんどは、働き人たちも共にアルマティにおり、ここで何年もの間、礼拝のために様々な施設を借りてきました。最近、政府は宗教団体が礼拝のために施設を借りることを禁じる法律を通過させました。そのため、わたしたちのグループは厳しい状況を強いられています。そこで、ロシアユニオンと東ヨーロッパユニオンはこの地域の本部となるべき礼拝の家を建設するために一角の土地を購入しました。

アルマティは中国からヨーロッパへ渡る有名なシルクロードに沿って位置しており、交差路にあります。現在、中国が高速道路を復活させるために何十億もの投資をしているという事実のほかに、アルマティの重要な位置により、観光地の中心ともなっています。「わたしたちは真理を地の隅において隠してはならない。それは知らされなければならない。…キリストはご自分の働きにおいて、ご自分の場所を、湖畔や、世界中のあらゆる場所から来る人々に会うことのできる旅路の大通りに置かれた」（教会への証 7 卷 35）

親愛なる兄弟がた、わたしたちは永遠の入り口に来ています。もうまもなくキリストはご自分の民を良き地に連れていくために来られます。わたしたちが物質的な財産を必要としなくなり、「神のみ事業の益のために、あなたが取り扱うことのできる所にある資金を集めなさい」と強く勧められることのなくなる時が急速に迫っています（教会への証 5 卷 465）。

カザフスタンから皆さんの兄弟姉妹より

持続する愛

「こうして、ヤコブは七年の間ラケルのために働いたが、彼女を愛したので、ただ数日のように思われた。」(創世記 29:20)

「純粋な愛は、神をそのすべての計画に入れ、神の御霊と完全な調和のうちであり、情欲は強情で、性急で、不合理で、あらゆる抑制に反抗し、その選択の対象を偶像とする。真の愛を持つ人のあらゆるふるまいにおいて、神の恵みが表される。」(思い、品性、個性 1巻 213)

参考文献： アドベンチスト・ホーム 99-114

日曜日

7月26日

1. ハランに到着する

- a. 自分の父親の指示に従って、ヤコブはどこへ行きましたか。また何が彼の到着をほろ苦いものとししましたか(創世記 29:1-4 (創世記 24:10, 34, 35 参照))。

「ヤコブは、神の約束に対する新しい永続的信仰と、天使の存在と保護の確証をいだいて、『東の民の地』にむかって旅を続けた(創世記 29:1)。ところが、約百年前に、アブラハムのしもべが到着したときとは、状態がなんと異なっていたことであろう。しもべは、らくだに乗った多くの召使をつれ、金銭とりっぱな贈り物を持って来た。ところがむすこは、旅につかれた旅人として、つえのほか何の持ち物もなく、たったひとりやってきた。」(人類のあけぼの上巻 202, 203)

- b. その後、彼が自分の母親の親戚の場所へ近づくにつれ、何によってヤコブはより希望を感じることができるようになりましたか(創世記 29:5, 6)。

2. もはや孤独ではない

- a. ヤコブがすぐに家族の安寧を気遣ったことを何が明らかにしていますか。また今度は彼が活気づけられ、慰められたことを、何が明らかにしていますか（創世記 29:9-14）。

「ヤコブも、アブラハムのしもべのように、井戸のかたわらで休んだ。そして、彼が、ラバンの妹のラケルに会ったのはここであった。井戸から石を取りのけ、家畜に水を飲ませる手伝いしたのは、今度はヤコブであった。ヤコブは、自分が彼らの親類であることを話して、ラバンの家庭に歓迎されることになった。彼は、持ち物も、供の者も連れずにやってきたが、わずか数週間で彼の熱心さと熟練さとが認められて、長く滞在するように勧められた。」（人類のあけぼの上巻 203）

- b. ヤコブの雇用のために、どのような取り決めがなされましたか（創世記 29:15-19）。

「昔、結婚の契約が正式に認められるに先だって、花婿はその身分に応じて、いくらかの金銭またはそれに相当する物品を、妻の父に手渡す習慣であった。もし彼が金銭も価値あるものも持っていない場合、娘を自分の妻として得ることができる前に、一定期間の彼の労働が受け入れられた。これは、結婚関係の安全を保つものと考えられていた。父親は家族を養うたくわえもしていない男に、娘の幸福を託すことは安全でないと考えた。もし彼らが家業にはげみ、家畜や土地を手に入れることができないようであれば、彼らの一生は見込みがないと思われた。しかし、真に価値のある者が失望することがないように、妻のために支払うべき価値あるものを何も持っていない人々の価値を試すために備えがなされていた。彼らは自分が愛する娘の父親のために働くことが許された。彼らは、娘のために納入すべき結納金の額に応じて定められた期間、働くのであった。こうすることによって、性急な結婚はなくなり、求婚者の愛情の深さを試す機会となった。もし彼が忠実に任務を果たし、他の点でもりっぱであることを証明すれば娘を妻にすることができた。そして、一般には結納金として父が受け取ったものは、結婚のときに娘に与えられた。」（霊的賜物 3 巻 119, 120）

- c. 将来の夫婦の品性は、こうしてどのように霊的に発達させられましたか（ヘブル 10:36）。

3. ヤコブの結婚

- a. ヤコブがラケルに対して示した本物の愛の深さから、わたしたちはこの時代に何を学ぶべきですか (創世記 29:20)。

「こうしてヤコブは、ラケルを妻にめとるためにラバンのために七年間働くことになった。」(人類のあけぼの上巻 203)

「今日、親や子供はなんと対照的な道をたどることであろう!あまりにも急ぎすぎるために、不幸な結婚が数多い。二人は、十分に前もって事の重さをはかることなく、また慎重な内省と真剣な祈りに時間をさくことなく、神のみ前におけるもつとも厳粛な誓いによって、自分たちの関心を結婚という祭壇で結合させる。多くの人々は衝動から行動する。彼らは互いの気質をよく知らない。彼らは自分たちの全生涯の幸福がかかっていることを悟らない。もし彼らがこのことにおいて誤って動き、彼らの結婚が不幸なものだとわかって、取り戻せないのである。もし彼らが互いを幸福にするために計画されたものではないことがわかったら、それをできる限り最上の方法で耐えなければならない。ある場合には、夫が家族の必要を扶養するにはあまりにも怠惰であることがわかり、彼の妻や子供たちが苦しむ。もしそのような人の能力が、昔の習慣のように結婚前にわかったら、多くの悲惨から救われたことであろう。」(霊的賜物 3 巻 120)

- b. 結婚においてラケルの手を取るために働いた7年間の厳しい労働の後、何が起きましたか (創世記 29:21-26)。

「[ヤコブ] は自分の愛するラケルのためにラバンと結婚の契約を結んだ。彼がラケルのために7年間仕えた後、ラバンは彼を欺いて、レアを与えた。ヤコブが自分になされた欺瞞と、またレアも彼を欺くのに一役買ったことを悟ったとき、彼はレアを愛することはできなかった。ラバンはヤコブの忠実な奉仕をさらに長い期間、得たいと望んだため、彼にラケルの代わりにレアを与えて欺いたのであった。ヤコブは自分の愛していなかったレアを与えることによって、このように自分の愛情を軽々しく扱ったラバンを責めた。ラバンはヤコブにレアを出さないように懇願した。なぜなら、それは妻にとってばかりでなく、家族全体にとって大いなる不面目とみなされるからであった。」(同上 117, 118)

4. 神のご計画に干渉する

- a. ラケルに対するヤコブの不滅の愛のために、ラバンにはどのような賢い解決法がありましたか。しかし、どのようにこれはすべての人にとって悲惨の原因となりましたか（創世記 29:27-30）。

「ヤコブは最も厳しい立場に置かれた。しかし、彼はレアを持ちながら、なお彼女の姉妹と結婚することを決心した。レアはラケルより受ける愛情がずいぶん少なかった。ラバンはヤコブの取り扱いにおいて利己的であった。彼はただ自分自身がヤコブの忠実な労働によって進展することしか考えていなかった。彼は狡猾なラバンのもとを久しい以前に去っていたはずであったが、エサウに直面することを恐れていた。」（霊的賜物 3 巻 118）

「ヤコブが最も愛したのはラケルであった。しかし、彼が彼女を他のものより愛したことは、ねたみとそねみの原因となった。そして、彼の生涯は、姉妹のふたり妻の争いによって悲惨なものになった。」（人類のあけぼの上巻 205）

- b. レアとラケルの両方を扱うときに、ヤコブの家庭生活において、混乱を生じさせた最大の問題は何でしたか（雅歌 8:6）。
- c. わたしたちが一人の男と一人の女の間の一生の約束とされた結婚に対する神の本来のご計画に対して、様々な選択肢を考案しようとするとき、いつでも何が起こりますか（創世記 2:21-24; 伝道の書 7:29）。

「結婚関係は聖なるものである。しかし、この墮落した時代にはそれがあらゆる種類の淫らさを網羅している。それは乱用され、ちょうど洪水前にしていた結婚が当時犯罪であったように、今や終わりの時代のしるしの一つをなす犯罪となっている。」（教会への証 2 巻 252）

「もし悪魔が、家庭生活の尊ぶべきもの、優雅なもの、また永続的なものを最も効果的に破壊し、それと同時に、その目的としている害毒を、世々にわたって引き続いて及ぼそうとするならば、結婚の墮落以上に効果的な手段を考え出すことはできなかったであろう。」（各時代の争闘上巻 346）

5. 心を清める

- a. わたしたちの地球全体を毒した墮落したルシファーの主たる根本的な遺産は何ですか (コリント第一 3:3; コリント第二 10:12)。

「妬み、嫉妬、また邪推は、サタンがキリストのご品性についての視界を妨げようとする黄泉の陰である。悪を眺めることによって、あなたはそれと似た姿に完全に変えられてしまうこともできる。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ワット・コメント] 3 巻 1163)

- b. わたしたちは他の人と競争し、彼らに憤慨するこの恐ろしい生来の傾向を、どのようにして克服することができますか (ガラテヤ 5:25, 26)。

「自己を低くし、あらゆる嫉妬、邪推、妬み、憎しみ、悪意、また不信仰を捨て去るべきである。完全な変化が必要とされている。ある人々はわたしたちの模範、すなわち苦しまれるカルバリーの人を見失っている。このお方の奉仕において、わたしたちは安逸、誉、この世の生涯における偉大さを期待するには及ばない。なぜなら、天の大君であられるお方が、それをお受けにならなかったからである。『彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた』。『彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ』(イザヤ 53:3, 5)。わたしたちの前にこの模範がありながら、わたしたちは十字架を避け、状況に左右されるのであろうか。…

周囲の状況がいつもつらく、失望させるものであろうと、わたしたちは神のうちに立つことができないであろうか。」(教会への証 2 巻 516, 517)

個人的な復習問題

1. ヤコブの貧困にもかかわらず、何によって彼のために備えてくださる神の保護が表されましたか。
2. 結婚のための昔の習慣から、わたしたちが学ぶことのできるいくつかの資質をあげなさい。
3. ヤコブは痛みを通して、欺瞞を働くことがいかに邪悪であるかを、どのように学びましたか。
4. わたしは自分の感化力を通して、どのように結婚の神聖さを掲げることができますか。
5. どのように妬み、すなわち最も陰湿なルシファーの遺産は、わたしを墮落させるかもしれませんか。

貪欲の悪

「わたしの心をあなたのあかしに傾けさせ、不正な利得に傾けさせないでください。」
(詩篇 119:36)

「与えられている才能や機会を忠実に最高度に用いなければならないことや、天の神がわれわれにお定めになった境遇に満足することを学ばなければならない。」
(教育 126)

参考文献： アドベンチスト・ホーム 282-287

日曜日

8月2日

1. レアの苦しい立場

a. 神はレアの生涯を明るくしようとされましたが、彼女のどの言葉が家庭における張り合いの苦痛を明らかにしていますか (創世記 29:31-34)。

「利己的で強欲なラバンは、非常に貴重な働き人を引きとめておくため、無情にもラケルのかわりにレアを与えて、ヤコブを欺いた。レアもこうした欺きに加担したために、ヤコブは彼女を愛する気になれなかった。」(人類のあけぼの上巻 205)

b. レアが、つぶやきを示唆することなく、より深い信仰と信頼を表明した瞬間から、わたしたちは何を学ぶことができますか (創世記 29:35)。

「わたしたちの会話は聖なるもので、つぶやきのないものでなければならない。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1889年5月7日)

「いつも主をほめたたえなさい。状況の暗い側ではなく、明るい側を見なさい。目を覚まして祈りなさい。そうすれば、主はあなたを祝福し、導き、強めてくださる。」
(この日を神と共に 234)

2. 欲求不満と愚かさ

- a. ラケルは夫の優先的な取り扱いに安んじるよりも、なぜ彼女は神が自分の姉にお与えになった祝福をむさぼったのですか（創世記 30:1; 箴言 30:15, 16）。
- b. これはヤコブにとって、どのように不愉快な問題の源でしたか（創世記 30:2）。
- c. 自分のライバルと競争するために、ラケルは絶望的になってどの計画を始め、結婚関係をさらに貶（おとし）める原因となりましたか（創世記 30:3-8）。
- d. さらに問題を複雑にして、どのようにレアは競争を発展させましたか（創世記 30:9-13）。
- e. 何がさらに家族の家庭生活を苦しめ続けましたか（創世記 30:14-20）。
- f. 混乱のただ中で、神はどのようにラケルに憐れみを示されましたか（創世記 30:22-24）。
- g. しかしなお全般的に見て、この一切の争いの根は何でしたか。また、家族の中にいたすべての人は、どのように影響を受けずにはいられませんでしたか（箴言 13:10; 27:4; ヤコブ 3:16）。

「つまらないことを言い争うために、にがにがしい精神が養われる。公然たる不一致と口論によって、家庭の中に言いようのない不幸が持ち込まれ、愛のきずなによって結ばれているべき両人がばらばらになってしまう。」（青年への使命 456）

3. 立ち去るべき時

- a. ヤコブがラバンに 20 年間の勤勉な奉仕を捧げた後、彼ら二人は、ついにどのような会話をしましたか (創世記 30:25-30)。
- b. ヤコブの報酬について、何に合意しましたか (創世記 30:31-34)。
- c. ヤコブの次にとった段階と、それがどのように祝福されたかを説明しなさい (創世記 30:35-43)。
- d. ラバンの家族の嫉妬深く競争心のある性質は、どのようにヤコブが義父から去るべき時を示しましたか (創世記 31:1-5)。
- e. ヤコブはラバンの群れを飼う羊飼いとして彼が送った生涯について、自分の妻たちに、どのように説明しましたか (創世記 31:6, 7)。

「ヤコブは、メソポタミヤに二十年間とどまって、ラバンのために働いた。ところがラバンは、肉身のつながりを無視して、彼らの間がらから得られるだけの利益を得ようとしていた。ラバンはふたりの娘のために十四年の労働をヤコブに要求した。そして、その後の期間においては、ヤコブの賃銀を十回も変更した。それにもかかわらず、ヤコブの働きは勤勉で忠実であった。」(人類のあけぼの上巻 206)

- f. なぜ姉妹たちは、自分たちが育った環境を去ることにすぐ同意したのですか。またどのようにわたしたちは貪欲な環境を早く逃れるように強く勧められていますか (創世記 31:14-16; 詩篇 119:36)。

4. 群れを保護する

a. 忠実な羊飼いの生活を描写しなさい (ルカ 15:4)。

「羊飼いは、昼も夜も群れを守っていなければならなかった。羊の群れは盗まれるおそれがあった。また、数多くのどうもな野獣に襲われる危険もあり、よく見張っていないと群れが襲われ、大きな損害をこうむるのであった。ヤコブの下で多くの羊飼いが働いていて、ラバンの広範囲にわたる群れを養っていたが、彼自身がすべての責任を負っていた。一年の中のある期間は、彼自身が群れといつもいて、乾燥期には群れがかわいて死なないように、また最も寒い数か月間は、群れがひどい夜の霜にこごえないように守らなければならなかった。ヤコブは羊飼いかのしらであった。彼の雇い人たちは、彼の下で働く羊飼いであった。もし、羊がいなくなれば、羊飼いかのしらの損失であった。もし群れの状態がよくなければ、ヤコブはその群れの世話をまかせた者と呼んで、詳しい説明を要求した。」(人類のあけぼの上巻 206, 207)

b. なぜ聖書は羊を飼うことについて多く語っているのですか (ヨハネ 10:11-15; エゼキエル 34:16, 22)。

「羊飼いが勤勉でよく羊の世話をし、ゆだねられた無力な生き物をあわれむことなどを例にあげて、聖書の記者は、福音の最も尊い真理をいくつか説明している。キリストは、ご自分と民との関係を羊飼いにたとえられた。人間の墮落後、キリストはご自分の羊が、罪の暗い道で滅びる運命に陥ったのを見られた。彼は、これらのさまよう人々を救うために、天の父の家の誉れと栄光とを捨てられた。……彼は根気強く群れを守られる。彼は弱いものを強め、苦しみを和らげ、腕に小羊をだき、ふところに入れてたずさえられる。羊は彼を愛する。……」

大牧者キリストは、彼の牧者たちに、彼の下で働く羊飼いとして群れの世話をすることをゆだねられた。そして、ご自分が持たれた同じ関心を彼らも持って、主からゆだねられた任務の清い責任を感じるように命じられる。主は、彼らに、忠実に群れを養い、弱ったものを強め、気絶しそうになったものを生きかえらせ、かみ砕くおおかみから彼らを守るように、厳粛にお命じになった。

キリストは羊を救うために、ご自分の命を捨てられた。そして、彼は、彼の牧者たちに、このように表現された愛を彼らの模範としてお示しになる。」(同上 207, 208)

5. 神を信頼する必要性

- a. なぜヤコブは貪欲なラバンのもとをもっと早く去らなかったのですか。またついに彼を動かす原因となった実際の決定的な要因は何でしたか（創世記 31:10-13）。

「ヤコブは、エサウに会う恐れさえなければ、とつくの昔に、この悪賢い親類のもとを去っていたことであろう。ところがヤコブは、ラバンのむすこたちが、彼の富を自分たちのものだと考えて、暴力に訴えてでも手に入れようとする危険を感じた。彼は、非常に悩み苦しんで、どうしてよいかわからなくなった。しかし、彼は、ベテルでの慈悲深い約束を思い出し、この問題を神に訴えて指示を仰いだ。彼の祈りは夢のなかでこたえられた。『あなたの先祖の国へ帰り、親族のもとに行きなさい。わたしはあなたと共にいるであろう』（創世記 31: 3)。（人類のあけぼの上中巻 210）

- b. 去るための荷物をまとめているときに、何が、愛するラケルの品性のうちにある深刻な霊的欠陥を明らかにしましたか。またこれはどのようにわたしたちにとって警告ですか（創世記 31:17-19）。

「現代のイスラエルは昔の神の民よりも、神を忘れ、偶像礼拝に導き入れられる大きな危険のうちにいる。多くの偶像に、安息日順守者だと公言する者たちからさえも、礼拝が捧げられている。神は昔のご自分の民に特に偶像礼拝に対して警戒するようにお命じになった。なぜなら、もし彼らが生ける神に礼拝を捧げることから迷い出されると、このお方ののろいが彼らに臨むことになるからであった。…

祝福、もしくはのろいが今、神の民の前にある。すなわち、もし彼らが世から出てきて分離し、へりくだった従順の道に歩むならば祝福が、そしてもし彼らが天の高い要求を踏みにじる偶像礼拝者たちと結合するならばのろいがある。」（教会への証 1 巻 609）

個人的な復習問題

1. わたしたちはなぜしばしば自分の生涯について、ラケルとレアのような見方をするのですか。
2. どのような出産前の感化力が、誕生前のヤコブの息子たちに影響を与えたと思われますか。
3. なぜ、ヤコブにとってラバンを去ることが良い考えだったのですか。
4. わたしは自分の周囲にいる人々に対して、どのように羊飼いの資質を持つことができますか。
5. 困難な時に、神はどのように、ちょうどヤコブに対するのと同じように、わたしのための保護を示してられましたか。

偶像礼拝者を後にして

「もし、わたしの父の神、アブラハムの神、イサクのかしこむ者がわたしと共におられなかったなら、あなたはきっとわたしを、から手で去らせてでしょう。」(創世記 31:42)

「神は、ヤコブを憐れみたまうた。ラバンがまもなくヤコブに追いつこうとしたときに、神は夢を通してラバンに、お前は、ヤコブに良し悪しを言ってはならないと仰せになった。それは力づくでつれ戻そうとしたり、うまいことを言ってさそったりしてはならないということだった。」(生き残る人々 110)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 209-213

日曜日

8月9日

1. ラバンのもとを去ろうとする

- a. ヤコブはどのような方法で、パダンアラムから去らざるを得ないと感じましたか。またラバンの反応は何でしたか(創世記 31:20-23)。

「家畜や羊の群れが大急ぎで集められ、先に送り出された。そしてヤコブは、妻子、しもべたちを伴ってユフラテ川を渡り、カナン国境にあるギレアデに向かって急いだ。ラバンは、彼らの逃亡を三日後に知ってその後を追いかけ、彼らが出発してから七日めに、彼らに追いついた。ラバンは、激怒していた。そして、彼の一隊はヤコブの群れよりはるかに強力だったので、わけなく彼らを引きもどせると思っていた。」(人類のあけぼの上巻 210)

- b. 何がラバンにヤコブを害することをやめさせましたか。それでいながら、偶像礼拝者として、彼らが対面したとき、彼は何を力説しましたか(創世記 31:24-30)。

「ラバンの抱いた敵対心が実行に移されなかったのは、神ご自身が、彼のしもべを守護するために介入されたからである。

ラバンは……ヤコブを、悪がしこくきびしく取り扱った。ところが、今、彼は、彼独特のそらぞらしい態度で、ヤコブがひそかに出発したこと…を責めた。」(同上)

2. 家族を守ることを学ぶ

- a. わたしたちは、なぜヤコブの偶像礼拝に対する憎しみによって励まされ、また間違いなく家族に影響を与えていたに違いないラケルの隠れた罪によって警告を受けることができますか (創世記 31:31-35; 箴言 15:3)。

「異教の偶像礼拝の精神そのものが今日満ちている。科学や教育の感化の下で、それはさらに精錬され、魅力的な形をとっている。毎日、確かな預言の言葉を信じる信仰がすみやかに減少しており、またその代わりに迷信や悪魔的な魅惑が人々の思いをとりこにしている悲しむべき証拠が加わっている。真剣に聖書を調べず、生活の一つ一つの願望や目的を聖書の誤ることのない試金石に服従させないすべての人、神のみ旨の知識を求めて祈りのうちに神を求めないすべての人は、たしかに正しい道からさ迷い出て、サタンの欺瞞の下に陥るのである。」(教会への証 5 卷 192)

「自分の父親や母親の前でしないこと、あるいはキリストや聖天使たちの前で恥じるようなことを、他人の前で何一つしてはならない。…

気をつけなさい。なぜなら、あなたは御使たちや神の御目に明らかでないことは何一つできないからである。あなたが一つの悪の働きをなせば、必ず他人はそれによって影響を受けずにはいない。あなたの一連の行為は、あなた自身の品性建設においてどのような種類の材料が用いられているかを明らかにする一方、それはまた他人に対して強力な感化を及ぼすのである。」(同上 398, 399)

- b. ヤコブは、利己的なラバンとの生活をどのように要約しましたか。またラバンが提供できた唯一の返答は何でしたか (創世記 31:36-42, 44, 48-50)。

「ラバンは、ヤコブの言った事実を否定することはできなかった。そこで彼は、平和の契約を結ぼうと言った。」(人類のあけぼの上巻 211)

「ラバンは、ヤコブが二人の妻をめとったのはただ自分の策略によったのであるが、一夫多妻のあやまちを理解した。彼はレアとラケルがヤコブに自分たちののはしためを与えたのは、彼らの嫉妬であったことを十分承知していた。それが家族関係を混乱させ、自分の娘たちの不幸を増したのであった。そして今、自分の娘たちが自分から遠く離れたところへ旅立ち、彼らの利益が自分自身の利益から完全に離れようとしているときに、彼はできる限り彼らの幸福を守ろうとした。ラバンはヤコブが他の妻をめとって、ヤコブ自身とレアとラケルの上にさらなる不幸を招くことがないように願った。」(霊的な賜物 3 卷 126)

3. 次の一步に直面する

- a. ヤコブはどのようにパダンアラムにおける自分の経験を閉じましたか(創世記 31:51-55)。

「この契約を確認するために、彼らは宴を開いた。彼らは、その夜楽しく語り合っ
て過ごした。そして夜明けにラバンと彼の従者たちは去って行った。この離別を
境にして、アブラハムの子孫とメソポタミヤの住民との接触はとだえてしまった。」(人
類のあけぼの上巻 211)

- b. ヤコブが自分の故郷に旅を始めたとき、ヤコブに訪れたどの歓迎の祝福について、
何が励ましとなりますか(創世記 32:1, 2)。

「ヤコブは、神の指示に従って、パダンアラムを出発したものの、二十年前に逃
亡者として歩いた道を引き返すのは、なんとなく不安なものであった。彼は、父を
あざむいた罪を忘れることができなかった。彼は、自分の長い逃亡生活が、その
罪の直接の結果であることを知っていた。彼は、日夜そうしたことを考えて良心に
責められ心沈む思いで旅を続けた。…

旅の終わりが近づくにつれて、彼は、エサウのことを考えて、不安な予感を感じ
た。エサウは、ヤコブが逃亡したあと、自分ひとりで父の財産を相続したつもり
であった。そこへ、ヤコブが帰ってくるという知らせはヤコブが遺産を取りに来たと
思わせる恐れがあった。エサウは、害を加えようとすれば、ヤコブに大きな損害を
与えることができた。そしてエサウは、ヤコブに対する復讐のためばかりでなく、こ
れまで、長年自己のもののみなしてきた富を確保するためにも、ヤコブに暴力をふる
うことができた。

主は、ふたたび保護のしるしをヤコブにお与えになった。彼らがギレアデ山か
ら南下していると、彼らを保護するように、天の使いの軍勢が二軍に分かれて彼ら
の一隊の前と後ろを取り囲んでいた。ヤコブは、昔、ベテルで見た夢を思い出した。
そして、カナンから逃亡したときに希望と勇気を与えた天使が、帰途の守護に当た
っている確証を見て重い心が軽くなった。ヤコブは『これは神の陣営です』と言って、
その所の名をマハナヰム(二軍または、二つの陣営)」と名づけた(創世記 32: 2)。(人
類のあけぼの上巻 212, 213)

4. 心配の原因

- a. ヤコブは自分の安全のために、どのような賢明な予防措置を取りましたか（創世記 32:3-5）。

「ヤコブは、自分の安全を確保するなんらかの方法を講じなければならないことを感じた。そこで彼は兄弟に使者を送って、和解の言葉を伝えさせた。彼は、エサウにどう言うべきかを彼らにはっきりと教えた。ふたりの兄弟が生まれる以前から、兄は弟に仕えるといわれていたので、この記憶が感情を傷つけてはならなかった。そこで彼は、彼のしもべたちが彼の『主人エサウ』のところに送られているのだと言った。そして、彼の前に現われたときには、自分たちの主人のことを、『あなたのしもべヤコブ』と呼び、彼が貧しい放浪者として父の財産を要求するために帰国したと思われぬために、注意ぶかく次のように言わせた。『わたしは牛、ろば、羊、男女の奴隷を持っています。それでわが主に申し上げて、あなたの前に恵みを得ようと人をつかわしたのです』（創世記 32: 5)。」（人類のあけぼの上巻 213）

「〔ヤコブは〕自分自身の優先権を主張しなかった。かえって、礼儀正しく自分の兄を優れたものとして語りかけ、こうして自分のかつてとった行動が引き起こした怒りを和らげようと望んだ。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1879年11月20日）

- b. ヤコブの機転にもかかわらず、使者たちはどのように返答しましたか（創世記 32:6）。

「しもべたちは、エサウが四百人を率いて近づいていることと、彼の友好的伝言にはなんの返答もしないという知らせをもって帰った。」（人類のあけぼの上巻 213）

- c. この時点におけるヤコブの状況を述べなさい（創世記 32:7, 8）。

「〔ヤコブ〕は、引き返すことも、前に進むこともできなかった。武装も防備もない彼の一族は、敵と戦う用意は全くなかった。そこで彼は、彼らを二組に分け、一組が攻撃されれば他の一組が逃げられるようにした。」（同上 213, 214）

5. 希望を必要としている罪人

- a. ヨブのように、ヤコブは今、どのような種類の経験をくぐろうとしていましたか（ヨブ 7:6, 20）。

「そこはものさびしい山地で、野獣がひそみ、盗賊や人殺しが出没するところであった。ヤコブは、ただひとりでなんの防備もなく、深い悲しみに沈んで地にひれ伏した。それは真夜中であった。彼の愛する家族の者たちがみな遠くへ行き、危険と死にさらされている。彼にとって何よりもつらいことは、彼自身の罪悪のゆえに、罪のない者たちが危険にさらされることであった。」（人類のあけぼの上巻 214）

- b. わたしたち一人びとりの生来の状態を述べなさい。またわたしたちの唯一の希望を説明しなさい（イザヤ 1:5, 6, 18-20）。

「わたしたちは、生れながら神に遠ざかっている。聖霊はわたしたちの状態を次のように言っている。『自分の罪過と罪とによって死んでいた者』（エペソ 2:1）『その頭はことごとく痛み、その心は全く弱りはてている。足のうらから頭まで完全なところがなく』（イザヤ書 1:5, 6）と。わたしたちは全く『悪魔に捕えられて』（テモテ第二 2:26）かれの思いのままに、しっかりととりこにされているのである。神はわたしたちをいやし、解放しようと望んでおられる。しかしこれには完全な改革、つまりわたしたちの性質を全く新しくしなければならぬため、わたしたちは自らを全く神にささげなければならない。

自己との戦いは最も大きな戦いである。自己に打ち勝ち、神のみ心に全く従うには戦いを通らねばならない。しかし神に服従しなければ、魂が聖化されることはできないのである。」（キリストへの道 53, 54）

個人的な復習問題

1. 彼の言葉にもかかわらず、なぜラバンはヤコブの出発によって怒ったのですか。
2. ラケルは明らかにどの邪悪な習慣を自分の父親から学びましたか。
3. 主は、緊張の多い出発の時に、どのようにヤコブを慰めてくださいましたか。
4. エサウに近づく際に、ヤコブはどの態度の変化を必要としていることを悟りましたか。
5. 後悔が問題に伴うとき、わたしたちは助けを求めてどこだけを見ることができずか。

祝福を切望する

「ヤコブは答えた、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』。」
(創世記 32:26)

「ヤコブは、その生涯の大きな危機に当面した時に、ひとり離れて祈った。彼は品性を変えていただきたいという切なる願いを心にいだいていた。」(祝福の山 179)

参考文献： 生き残る人々 110-119

日曜日

8月16日

1. ヤコブの唯一の望み

- a. エサウが400人を連れて来ていることを聞いたとき、ヤコブはどのように感じましたか。また完全な絶望のうちに、彼が唯一できることは何でしたか(創世記 32:7 (前句), 9-12)。

「自分の父親を欺いたことにおけるヤコブのとった罪深い一連の行動は、つねに彼の前にあった。彼は自分の長い逃亡生活が、自分自身の厳密な正直さ、正しい律法から逸脱した結果であることを知っていた。彼は日夜これらのことを考え、良心の呵責に苦しんだ。そして彼の旅を非常に悲しいものとした。彼は自分がつまずき、自分の魂に罪のしみをつけたところをもう一度やり直せたらとどれほど切望したことであろう。彼が不法を犯す前には、彼には神の是認の自覚があり、それが彼を困難の下でも勇敢にし、問題と暗雲のただ中でも快活にした。この深く永続的な平安に、彼は長い間縁遠かった。しかしながら、彼は神が自分に示してくださった恩寵、輝くはしごの幻、助けと導きの約束を、感謝をもって思い出した。自分の生涯の過ちと落ち度、また神が自分を取り扱ってくださった方法を厳粛に顧みて、彼はへりくだって自分自身の無価値さ、神の大いなる憐れみ、また自分の勤労を冠した繁栄を認めた。

彼の生まれ故郷の丘がかなたに自分の前に現れると、父祖の心は深く感激した。彼は自分の神を試し、このお方の約束が失望に終わらないことを見出した。彼は神が自分と共にいてくださることを信じた。それでもなお、エドムに近づくにつれ、彼はエサウを大いに恐れた。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1879年11月20日)

2. 救い主とだけで

- a. ヤコブはどのように賢明で機転のきいた計画を実行しようと決心しましたか（創世記 32:13-21）。

「ヤコブは自分の兄弟の怒りをなだめる計画を練るために自分の旅路を休止した。彼は無分別に危険に飛び込むことをせず、かえってエサウのところへ僕たちの手によって好ましい印象を残すように意図されたメッセージと共に大きな贈り物を送った。彼は自分の妻たち、子どもたち、そして自分のすべての持ち物を旅の前方へ送り、自分自身は背後にとどまった。彼は、無力な小さい群れを見れば、エサウの気持ちに触れるのではないかと考えた。彼は大胆で復讐心が強かったが、弱い者や保護の無い者に対しては憐れみ深く優しい人であった。もし彼の目が最初にヤコブにとまったなら、彼の怒りがかきたてられ、彼らは皆殺しにされることであろう。」（*ザ・タイムズ* 1879年11月20日）

- b. この時のヤコブの優先順位を説明しなさい（創世記 32:22-24（前句））。

「ヤコブは自分の神と二人だけになりたかった。それは真夜中であった。自分の人生をいとしいものとする一切のものは少し離れたところにあつて、危険と死にさらされていた。彼の苦悩の杯のもつとも苦いしずくは、彼自身の罪がこの大きな危険を自分の妻たちと子供たちの上にもたらしたという思いであった。彼らは彼の犯した罪に関して無実であった。彼は夜をへりくだりと祈りのうちに過ごす決心をした。神は自分の兄の心を和らげることがおできであった。神が彼の唯一の避け所であり、強さであった。人影のない強盗や殺人者が出没するところで、彼は深い悲嘆のうちに地に伏した。彼の魂は苦悩に裂かれ、涙の混じった真剣な叫びをもって彼は神のみ前に祈った。」（同上）

- c. 来るべき世代にとって、ヤコブの熱心な祈りは、どのように模範となるべきですか（詩篇 46:1-3, 7）。

「ヤコブは辛抱強く、断固としていたため勝利した。彼の経験はやめない祈りの力を証している。わたしたちが勝つ祈り、不屈の信仰というこの教訓を学ぶべきなのは、今である。」（文書伝道 81）

3. 苦闘の一夜

- a. ヤコブが祈っていたとき、突然、何が起こりましたか。またなぜそれはわたしたちにとって意味深いのですか (創世記 32:24-26)。

「力強い手が、突然〔ヤコブの〕方の上に置かれた。彼はすぐさま自分の攻撃者と取っ組み合う。なぜなら、彼はこの攻撃が自分の命を取ろうとねらったものだと感じるからである。彼は強盗もしくは殺人者の手の内にあると思う。戦いは深刻であった。どちらも一言も口にしなかった。しかし、ヤコブは自分の全身の力を出し、一瞬も自分の努力をゆるめない。こうして、格闘は夜明け近くまで続いた。そのとき見知らぬ人がヤコブのももに置かれ、その瞬間、彼は不具になった。父祖は今、自分の敵対者の品性を見極めた。彼はまさに天の使者と体で戦ってきたことを知る。そして、それこそ彼のほとんど超人的な努力が勝利をもたらさなかった理由である。彼は今、不具となり、最も鋭い痛みに苦しみながらも、自分のつかんだ手を緩めない。彼、すなわち、敗れた敵は全く悔いせずおれて、御使の首にすがりつく。

鼓舞されるこの出来事の歴史のうちに、ヤコブと格闘した者は人だと呼ばれている。ホセアは彼を使と呼んでいる〔ホセア 12:4〕。一方、ヤコブは、『わたしは顔と顔をあわせて神を見た』と言っている。また彼は神に力を争って勝ったと言われている。それは天の大君、契約の天使、すなわち人のかたちと姿でヤコブのもとへ訪れたお方であった。神聖な使者は自らヤコブのつかむ手から逃れようといくらかの力を使われる。彼はヤコブに嘆願する、『夜が明けるからわたしを去らせてください』。しかし、ヤコブは、神の約束を嘆願してきたのである。彼はこのお方の誓いの言葉に信頼してきた。それはこのお方の御座と同様に確かであり、裏切ることのないものである。そして、今、へりくだり、悔い改め、そして自己屈服を通して、この罪深い過ちを犯した死すべき人間は、イエス・キリストと取引をすることができるのである。『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』。ここに何という大胆さが表されていることであろう！何という気高い信仰、何という辛抱強さと聖なる信頼であろう！これはヤコブの側の僭越や過度の親しみであろうか？もしそれがそのような性質のものであれば、この光景を通じて彼が生きていることはなかったであろう。彼の大胆さは、自己称揚や誇りに満ちた僭越的な主張ではなく、自分の弱さと無価値さ、および神がご自分のみ約束を果たされる能力を自覚した者の確信であった。」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1879年11月20日)

- b. イエスは、ヤコブがしたように、どのようにわたしたちも辛抱強く祈るよう命じておられますか (ルカ 18:1-8)。

4. 全能者の憐れみ

- a. なぜ、全能なる契約の御使が、ただの人に対して勝たれなかったのですか（ヨブ 23:6; ルカ 11:13）。

「『ところでその人はヤコブに勝てないのを見て』〔創世記 32:25〕 一天の大君が ちりの人、すなわち罪深い死すべき者に対して勝つことができにならなかったの である！その理由は、人が震える信仰の手で神の約束をしっかりとつかんでおり、神 聖な使者は悔い改めて、涙を流し、無力なままご自分の首にすがっている者を後に 残すことができないからである。このお方の大きな愛の心は、嘆願する者の要求に 応えずに、きびすを返すことがおできにならない。キリストは彼の魂が絶望に囲ま れている時に、彼を祝福されないままにしておくことを望まれなかった。」（サインズ・オ フ・ザ・タイムズ 1879年11月20日）

「〔ヤコブ〕はふるえる手で神の約束にすがった。そして、無限の愛に富む神の心は、 罪人の哀願を退けることができなかった。」（人類のあけぼの上巻 215）

- b. ヤコブの苦闘の結果を説明しなさい。また彼の名はなぜ変えられたのですか（創 世記 32:27-32）。

「ヤコブの罪へと導いた長子権を詐欺によって得ることにおける過ちが、今彼の 前に明らかにされた。彼は神とその約束を信頼すべきほどに信頼していなかった。 彼は短気になり、神がご自分の時と方法において豊かに果たすことがおできになる ことを、自分自身の努力によってもたらそうとしたのであった。

御使はヤコブに『あなたの名はなんと言いますか』と尋ねた。そしてヤコブは答 えた。そこで、このお方は、『あなたはもはや名をヤコブ〔おしのける者〕と言わず、 イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との、力を争って勝ったからです』と言わ れた（創世記 32:28）。ヤコブは自分の魂が切望していた祝福を受けた。おしのけ る者また欺瞞者としての彼の罪は許された。彼の人生における危機は去ったのである。 神は、ヤコブの取り扱いにおいて、ご自分の子らのだれでも最も小さい悪もお 認めにならないことを示しておられる。またこのお方は欺かれ、誘惑され、裏切ら れて罪に陥った者を絶望と破滅へ打ち捨てておかれることはないことを示しておら れる。疑い、困惑、そして悔恨はヤコブの人生を苦いものにしてきた。しかし、今 やすべては変わった。そして神のうちにある、すなわちこの回復された恩寵の確証 のうちにある休息と平安は何と甘かったことであろう。」（ヒストリカル・スケッチ 131, 132）

5. もう一人の御使の使命

- a. ヤコブとエサウが対面したときに、何が起こりましたか。それはなぜですか（創世記 33:1-4）。

「ヤコブがその重大な夜に御使と格闘している間、もう一人の御使、すなわちこの父祖が道中自分を保護しているのを見た万軍のうちの一人が、眠りの時間にエサウの心に働きかけるために遣わされた。彼は夢の中で、自分の弟がその父親の家から自分の怒りを恐れて20年間逃亡したのを見た。彼は自分の母親が死んだことを知ったときの彼の悲しみを目撃した。そして彼は彼が神の万軍に取り囲まれているのを見た。エサウはこの夢を自分の400人の武装した男たちに語り、彼らにヤコブを傷つけてはならないと命じた。なぜなら、彼の父の神が彼と共におられたからである。…

自分の杖に支えられて、父祖が兵士たちの一隊と対面するために出てきた。彼は敬意のしるしとして繰り返し頭を下げ、その一方彼に伴うわずかな付添人たちは最も深い懸念をもって事態を見守っていた。彼らはエサウの腕がヤコブの首の周りに投げかけられ、あれほど長い間彼が恐ろしい報復におびやかしていた人を自分の胸に強く抱きよせるのを見た。報復は今や優しい愛情へと変わり、かつては弟の血に渴いていた者が喜びの涙を流した。彼の心はもっとも優しい愛とやさしさの行為をもって溶かされた。エサウの軍隊の兵卒たちは涙と祈りの夜の結果を見た。しかし、彼らは争闘と勝利については何も知らなかった。彼らは父祖、夫であり父親である者の自分の家族や自分の財産に対する気持ちは理解した。しかし、彼らは彼が神と持っているつながりは見ることができなかった。そのつながりが、すべての人の心をその手中に持つておられるお方からエサウの心を得させたのであった。」(サムズ・オブ・ザ・タイムズ 1879年11月20日)

- b. 出会いはどのように終わりましたか（創世記 33:10, 11, 15-17）。

個人的な復習問題

1. 危機にあるとき、わたしたちは、ヤコブのように、どの神の恩寵のしるしを思い起こさなければなりませんか。
2. 贈り物をするほかに、ヤコブはどのように自分の兄と会う準備をしましたか。
3. わたしの祈りの生活は、どのようにもっとヤコブの祈りの生活のようになることができますか。
4. ヤコブの格闘の夜について、霊的な結果を説明しなさい。
5. 御使たちがわたしの知っているだれかの心を変えるどのような可能性がありますか。

ヤコブの悩みの時

「悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べるべき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれから救い出される。」(エレミヤ 30:7)

「ヤコブのように祈りのうちに格闘しなさい。苦闘しなさい。ゲッセマネの園のイエスは血の汗を流された。私たちも努力しなければならない。神にあつて強くされたと感じるまでは密室を去ってはならない。目をさましていなければならない。目をさまして祈っているかぎり、罪への誘惑を押える事ができ、また神の恩恵は私たちの内に現われることができる。」(青年への使命 126)

参考文献： 各時代の争闘下巻 387-397 404-408

日曜日

8月23日

1. わたしたちの最後のテストのために準備する

- a. ヤコブの苦悩は、まもなく神の民が耐えることになるものと、どのように類似していますか。またこれに伴ってどのような出来事がありますか(エレミヤ 30:5, 6; 黙示録 22:11, 12)。

「ヤコブの格闘と苦悩の夜の経験は、神の民が、キリスト再臨の直前に経験しなければならない試練をあらわしている。」(人類のあけぼの上巻 218)

- b. 恩恵期間の終了について、わたしたちは何を理解しなければなりませんか(使徒行伝 1:7; ヨハネ 9:4)。

「神はこのメッセージがいつ終わるかとか、恵みの時がいつ終わるかについて、時を示してはおられない。あらわされたことは、わたしたちや子孫のために受け入れるが、全能の神の会議の中であらわされていないものは、知ろうとしてはならない。……

恩恵期間がいつ終わるかについて特別な光が与えられたかと尋ねる何通かの手紙を受け取った。わたしは、昼が続いている今が働くべき時だ…というメッセージのほかは与えられていない、と答える。」(レクティッド・メッセージ 1巻 257)

2. 警戒が必要されている

- a. なぜ大いなる光をゆだねられているわたしたちは、平安のうちにわたしたちの主にお会いする準備において非常に警戒しなければならないのですか（テモテ第一 5:24; ペテロ第一 4:17）。

「審判において、記録の書が開かれるときに、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。われわれの助け主であられるイエスは、この地上に最初に生存した人々から始めて、各時代の人々のためにとりなし、現在生きている人々で終わられる。すべての名があげられ、すべての人の事情が詳しく調査される。受け入れられる名もあれば、拒まれる名もある。」（各時代の争闘下巻 215）

「与えられた大きな光と特権は、見返りとして彼らに与えられた光に付随する徳と聖潔を要求する。これに足りないものを、神はお受入れにならない。」（牧師への証 454）

- b. この現実に関連した厳粛さと希望の両方を説明しなさい（出エジプト 32:33; エゼキエル 18:24, 27-30）。

「もしだれかが、罪を悔い改めず、許されないまま、記録の書に残しておくならば、彼らの名は、いのちの書から消されて、彼らの善行の記録も神の覚えの書から消される。…

真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。」（各時代の争闘下巻 215, 216）

「贖罪の働きが終結しようとするときの光景は、実に厳粛である。そこには、実に重大な意義が含まれている。審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく—その時がいつかはだれも知らないが一息している人々の番になる。神のおそろべき御前で、われわれの生涯が調査されねばならない。今は、他のどんな時にもまさって、すべての者が救い主の勧告に心をとめるべき時である。『気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである』（マルコ 13:33）。……

調査審判の働きが終わるとき、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。」（同上 224, 225）

3. 荒らす憎むべき者

- a. わたしたちは、実際のな、しかしまた象徴的でもある初期のキリスト教において起こった経験から、どの警告に注意を払うべきですか（マタイ 24:15, 16）。

「救い主は、弟子たちに次のように警告を発せられた。『預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ』（マタイ 24:15, 16; ルカ 21:20, 21）。エルサレムの城外、数マイルにわたる聖地に、ローマ人の異教の軍旗が立てられるとき、キリストに従う者たちは、安全をもとめて逃げなければならなかった。警報が見えたならば、のがれることを望むものはためらってはならなかった。』（各時代の犬争闘上巻 12, 13）

「エルサレムが滅亡したとき、キリスト者はひとりも死ななかった。キリストが弟子たちに警告を発しておられたので、彼のみ言葉を信じたものは、みな、約束のしるしに注意していた。」（同上 17～18）

- b. この荒らす憎むべき者は、終わりの時に、どのように類似していますか（ダニエル 12:1）。

「ローマ軍によるエルサレムの包囲がユダヤ人のクリスチャンにとって逃亡のしるしであったように、法王の安息日を強制する法令においてわたしたちの国家〔アメリカ合衆国〕の側で権力を掌握するとき、それはわたしたちにとって警告となるであろう。」（主は来られる 180）

「すべての者の運命が、救いかまたは滅びかに決定されるまで、イエスは至聖所から出られないこと、また、イエスが至聖所における働きを終了し、彼の祭司の服を脱いで、報復の衣をまとわれるまでは、神の怒りが下らないことを、わたしは見た。そのときイエスは天父と人間との間から退かれる。そして神は、沈黙を破って、ご自分の真理を拒否した人々に神の怒りを注がれるのである。国々の怒り、神の怒り、そして死者を裁くときなどは、全く別の事件であって、相次いで起こるものであり、また、ミカエルは立ち上がっておらず、かつてなかったほどの悩みの時はまだ始まっていないことを、わたしは見た。今、国々は怒りつつあるが、われわれの大祭司が、聖所における働きを終えられて立ち上がり、報復の衣をまとわれるときに、いよいよ最後の七つの災いが注がれるのである。」（初代文集 96, 97）

4. わたしたちの信仰の焦点を合わせる

- a. ヤコブの悩みの時は、終わりの時に、どのように類似していますか（エレミヤ 30:7（前句）；黙示録 13:11-17）。

「キリストが、人間のための仲保者の働きを終了される時、この悩みの時が始まる。そのときに、すべての人の運命が決定され、罪を清める贖いの血はもうないのである。……ちょうど、ヤコブが、怒った兄エサウに殺されそうになったのと同様に、神の民も彼らを滅ぼそうとする悪者に生命を脅かされる。そして、ヤコブがエサウの手から救い出されることを一晩中祈ったように、義者は彼らの周囲の敵からの救済を日夜祈り求める。

サタンは、神の天使たちの前でヤコブを訴え、彼は罪を犯したから、彼を滅ぼす権利があると主張した。サタンは、エサウを動かして、ヤコブに対して軍勢を進ませた。また、サタンは、ヤコブが一晩中格闘している間、罪を思い起こさせ、彼を失望させ、神にすがるのをやめさせようとした。」（人類のあけぼの上巻 218, 219）

- b. サタンがわたしたちの罪に対してあざけるとき、何を思い出さなければなりませんか（イザヤ 1:18; 26:3, 4）。

「この苦悩のときに、ヤコブは天使を捕えて涙ながらに訴えたのである。すると、天使は、彼の信仰を試みるために、彼の罪を思い出させて、彼からのがれようとした。しかし、ヤコブは天使を行かせなかった。彼は、神があわれみ深いことを知っていたので、神のあわれみによりすがった。彼は、自分がすでに罪を悔い改めたことをさし示して、切に救いを願って求めた。ヤコブは、その生涯をふりかえってみると絶望するばかりであった。しかし彼は、天使を捕えてはなさず、苦悩の叫びをあげて真剣に願って求め、ついに聞かれたのである。

神の民も、悪の勢力との最後の戦いにおいて、これと同じ経験をするのである。神は、神の救出力に対する彼らの信仰、忍耐、確信を試みられる。サタンは、彼らの絶望的であること、そして、彼らの罪は大きすぎて、許しを受けることはできないと思わせ、彼らを恐怖に陥れようとする。彼らは、自分の欠点を十分知っていて、その生涯をふりかえってみれば、絶望である。しかし、彼らは、神の大きなあわれみと自分たちの真心からの悔い改めを思い出す。そして、無力な罪人が悔い改めるときにキリストによって与えられる神の約束を懇願する。」（同上 219）

5. ヤコブの激しさ

- a. ヤコブの悩みの時の最大の懸念は何ですか。またそれについて何が励ましとなる知らせですか(イザヤ 44:22; エレミヤ 30:7 (後句))。

「もし、ヤコブが欺瞞によって長子の特権を獲得した罪を、前もって悔い改めていなかったならば、神は彼の祈りを聞き、彼の命をあわれみのうちに保護なさることはできなかった。それと同様に、悩みの時においても、神の民が恐怖と苦悩にさいなまれるときに、告白していない罪が彼らの前に現われてくるならば、彼らは圧倒されてしまうであろう。絶望が彼らの信仰を切り離し、神に救済を求める確信を持たなくする。しかし彼らは自己の無価値なことを深く認めるけれども、告白すべき悪を隠していない。彼らの罪は、キリストの贖罪の血によってぬぐい去られていて、彼らはそれを思い出すことができないのである。」(人類のあけぼの上巻 220)

- b. 今、わたしたちが神を求めるときに伴うべき熱心さを説明しなさい(マタイ 11:12)。

「[マタイ 11:12 引用]。ここで述べられている暴力は、ヤコブが表したような聖なる熱心さである。わたしたちは自ら激しい感情に高めようとする必要はない。そうではなく落ち着いて辛抱強く、わたしたちは自分たちの嘆願を恵みの御座に訴えるべきである。わたしたちの働きは自分の罪を告白し、信仰のうちに神に近づくことによって、神のみ前に自分の魂をへりくだらせることである。」(彼を知るために 272)

「絶望のうちに義人たちは自分の無価値さを深く感じている。そして多くの涙をもって自分たちの全くの無価値さを認め、ヤコブのようにキリストを通して、ちょうどこのように依存した無力な悔い改める罪人のためになされた神のみ約束を嘆願するのである。」(預言の霊 1 巻 121, 122)

個人的な復習問題

1. なぜ神は賢明にも、恩恵期間の終わる日にちを明らかにすることを選んでこられなかったのですか。
2. わたしは自分の霊的な状態について、どのようにゆるくなりすぎる危険性がありますか。
3. イエスが、わたしたちの仲保者としての働きを閉じられるとき、何が起こりますか。
4. わたしたちの罪の告白に関して、どの二つの相反する思い込みが危険ですか。
5. わたしはどのようにして、もっとヤコブのような神との激しさを懸命に培うことができますか。

第一安息日献金 教育支部のために

ぶどう畑における働き人の必要は明らかです。「正しく訓練されたわれらの青少年たちから成るこのような働き人の軍勢があたえられるとき、十字架につけられ、よみがえり、まもなくおいでになる救い主の使命は、いかにすみやかに全世界に述べ伝えられることであろう。」(教育 320)

そこに働きがあり、教会はわたしたちの子供や青年たちが主の任務を果たし、「あなたがたは行って、すべての国民を…教え」るために、たしかに「正しく訓練され」るよう投資しなければなりません。



セブンスデー・アドベンチスト改革運動は、この目的に見合うために、様々な場所

で、かたちで、言語で教育的な働きに資金を投資しています。幼少時から高等教育の伝道学校まで、わたしたちの青年たちは『現代の真理』において、またこの真理が他の魂に提示されることのできる最善の方法で、堅固な土台を受けています。

「真の教育とは伝道者を養成することであって、神のむすこ、娘はすべて伝道者となるように召された者である。わたしたちは神と人ともに奉仕するために召されている。そしてこの働きに適した者となることが、わたしたちの教育の真の目的でなければならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 364)

青年たちがこの世の生涯の有用性と、永遠にわたる神の奉仕にふさわしいものとなることのできる学校を設立してきたのは、敵の誘惑に対して彼らを堅固にするためである。」(両親、教師、生徒たちへの勧告 495)

神の恵みによって、設立された学校は衛星プログラム、セミナープログラム、また最近ではオンライン教育のプラットフォームを含め、すべての人が教育を受けられるように拡張されてきました。コロンビアやアメリカ合衆国にあるわたしたちの学校のキャンパスからのこれらのオンラインプラットフォームにより、生徒たちはどこで生活しようとして伝道教育を受けることができるようになりました。

この資金への皆さんの惜しみない献金によってわたしたちの青年を訓練するための支援を示してください。あなたの惜しみない献金は、この報いある神のみ働きの分野の発展に寄与します。

先だってお礼申し上げます。そして献金と捧げる人に神様の祝福がありますように。

世界総会教育支部

家庭における改革

「ヤコブは、その家族および共にいるすべての者に言った、『あなたがたのうちにある異なる神々を捨て、身を清めて着物を着替えなさい。』」（創世記 35:2）

「神は、両親が理性のある者として行動し、子供たちをひとりびとり正しく教育…するように望んでおられる。」（アドベント・ホーム 171）

参考文献： 家庭の教育 605-611

日曜日

8月30日

1. 新しい分野—新しい課題

- a. ヤコブがエサウと対面した後、神は彼のためにさらに何を備えてくださいましたか（創世記 33:17-20）。

「こうして、ふたたび故郷に安全に帰らせてくださいと、神に願ったベテルでのヤコブの祈りは聞かれた。」（人類のあけぼの上巻 222）

- b. ヤコブが新しい地域に落ち着いた際、家族の管理における彼の怠慢を見ると、何を考えるべきですか（創世記 34:1; マタイ 6:13（前句））。

「ご両親がた、あなたがたは自分たちがどんなに大切な責任を負っているか、気づいているだろうか。あなたがたは、子供たちがどんな友人と交わり、どんな教育を受けているのかも知らないで、つきあうがままにさせているだろうか。子供たち同士だけでいるのを許してはならない。……

これはあなたにとって一つの試みであり、選択である。すなわち、たとえ隣人のきげんをそこねることになっても、あえてその子たちを家に帰すか、あるいはむこうの願いどおりに泊まらせてやって、その結果あなたの子供たちを、一生のわざわいとなるようなことを教え込まれる危険にさらすかである。」（家庭の教育 107, 108）

2. デナを汚す

- a. ヤコブの娘デナが、地の娘たちを見に行くという一見無害に見える計画をもって、出ていったとき、何が起こりましたか。またこの悲劇は、どのように今日わたしたちにとって警告ですか (創世記 34:2; コリント第一 15:33)。

「神を恐れない人々の中で楽しみを求める者は、自分をサタンの方において、彼の誘惑を招いているのである。」(人類のあけぼの上巻 223)

「世界中の……どこにおいても罪悪を目にし、耳にし、墮落放蕩への誘惑が至るところに存在する。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 336)

「諸都市はソドムのようになり、わたしたちの子らは日ごとに多くの悪にさらされている。公立の学校に出席する人々は、自分たちよりもなおざりにされてきた人々、すなわち教室で過ごす時間を除いては街路で教育を得るがままに放置されている者たちとしばしば交わるのである。青年の心はたやすく印象を受ける。そして彼らの環境が正しい性質のものでなければ、サタンはこれらのなおざりにされた子らを用いて、もっと注意深く訓練されている人々に感化を及ぼすのである。こうして、安息日順守者の親が、何がなされているかを認識する前に悪行の教訓を学び、彼らの小さい者たちの魂は墮落するのである。」(両親、教師、生徒への勧告 173)

「肉欲にふけることが聖潔への願望に水をかけ、靈的繁栄を衰えさせてしまったのである。」(家庭の教育 482)

- b. 何がわたしたちをそのようなわなから離れるように舵を取るべきですか (テサロニケ第一 5:22)。

「神のかたちに造られた子供たちの、魂と肉体という神の大切な財産をあずかっている人々は、現代の肉欲的放縦に対する防壁を築く必要がある。この放縦のために、何千という青少年たちが、心と体の健康をむしばまれている。現代の多くの犯罪の真の原因をつきとめていくなら、こうした問題に無関心で、あまりにも無知な父母たちに責任があるということがわかる。」(同上 108, 109)

「『ああ、あなたはそれほど厳密になる必要はありません。些細で無害な戯れが傷つけることはありません』という人々がいる。そして肉の心は、誘惑へ、そしてついには罪に至る放縦を実際に認めるよう急ぎ立てる。これは道徳を低める傾向であり、神の律法の高い標準に見合っていない。』(医事伝道 143)

3. 誓う用意ができています

- a. 異教徒シケムは、何がデナに対する義務だと思いましたか（創世記 34:3, 4, 6, 8, 11, 12）。神は後に、このような種類の状況のために、どのような緊急の備えをヘブル人にお与えになりましたか（申命記 22:28, 29）。
- b. 神の民のための神の標準は知らなかったにもかかわらず、ヤコブの娘に対するシケムの愛情は誠実なものに見えました。しかしながら、彼の父親の提案にはどのような危険の兆しが見えましたか（創世記 34:9, 10）。

「イスラエルが周囲の民との維持すべき関係について、主はモーセによって次のように言われた。『彼らとなんの契約をもしてはならない。彼らに何のあわれみをも示してはならない。……それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかって怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。』『あなたはあなたの神、主の聖なる民だからである。主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた』（申命記 7:2-4; 14:2）。

周囲の国々と契約関係を結んだ結果は、明白に予告されていた。」（国と指導者下巻 175）

- c. 不信者との雑婚に対する神の警告は、今日わたしたちにまで、どのようにこだまし続けていますか（コリント第二 6:14-18）。

「暗い影の晴れ間もないような家庭を持ちたくなければ、神の敵と結合してはならない。」（青年への使命 443）

「キリストに従う者は、世から出て、分離し、汚れたものに触れてはならないと要求されている。そうすれば、彼らにはいと高き者のむすこ娘、王家の一員になるという約束がある。しかし、もし彼らの側で条件に応じないならば、彼らは約束の成就を実現することはなく、実現できないのである。」（教会への証 2 巻 441）

4. 不誠実な実

- a. ヤコブの息子たちは、どのように窮状を解決しよう申し出ましたか。応答は何でしたか（創世記 34:7, 13-24）。
- b. 友好的な契約が結ばれたにもかかわらず、ヤコブの二人の息子たちは後にどのような恐ろしい行動を取りましたか。またわたしたちは自分たちの不誠実を正当化しようとするやり方に対して、どのように警告されていますか（創世記 34:25-29, 31; マタイ 5:13）。

「ヤコブとそのむすこたちのシケム滞在は、暴行と流血に終わった。家族のなかのひとりの娘がはずかしめられた。そして娘のふたりの兄弟は殺人罪を犯した。ひとりの軽はずみな若者の不法行為に対する報復として、町中が破壊され、男たちは殺された。……

シメオンとレビの非道な残虐行為には、それ相当の理由がなかったわけではなかった。しかし、シケム人への彼らの行動は、恐ろしい罪であった。」（人類のあけぼの上巻 222, 223）

「原則に生きることをしない信心の公言は、味を失った塩のように全く価値がない。原則によって支配されていない自称クリスチャンは語り草であり、キリストに対する恥であり、このお方のみ名に対する汚辱である。」（教会への証 2 巻 443）

- c. ヤコブは自分の家族管理における重大な欠陥について、何を理解しましたか。またどのような希望の光線が彼の心にもたらされましたか（創世記 34:30; 35:1）。

「このようなことは、深く恥じ入るべきことであるとヤコブは感じた。彼のむすこたちの性格のなかに、残酷と虚偽があらわれていた。天幕のなかには、偽りの神々があった。そして、彼の家族のなかでさえ、偶像礼拝が、ある程度まで根をおろし始めていた。もし、主が彼らにふさわしい取り扱いをされるとすれば、彼らが回りの国々のふくしゅうを受けるのをそのまま放任されるのではなからうか。

こうして、ヤコブが苦しみで沈んでいたときに、主は、ベテルにむかって南へ進むように彼にお命じになった。ヤコブは、この場所のことを考えると、天使の幻と神のあわれみの約束だけでなく、自分がそこで、主を自分の神にすると契ったことも思い出した。」（人類のあけぼの上巻 223, 224）

5. 神の方法への回復

- a. 家族の改革において、ヤコブがとったきわめて重要な手段を説明しなさい。また驚くべき結果は何でしたか（創世記 35:2-5）。

「〔ヤコブは〕神がどんなに驚くべき恵みを彼にお与えになったかを思い起こしたときに、彼自身が感謝の念にあふれるとともに、彼のむすこたちもまた強く心を打たれた。これは、彼らがベテルに着いてから、神の礼拝に参加するのにこの上もないよい準備であった。」（人類のあけぼの上巻 224）

「ヤコブはへりくだった。そして自分の家族に自らをへりくだらせ、自分たちのすべての飾りを取るよう要求した。なぜなら、彼は神に犠牲を捧げることによって、彼らの罪のための贖罪をなさなければならなかったからである。それは彼が彼らのために嘆願し、彼らを他の国家に滅ぼされるがままにすることがないためであった。」（霊的賜物 3 巻 137）

- b. すべての時代の信徒たちは、どのようにヤコブがベテルでもった新鮮で新しい経験の種類によって、鼓舞されることが出来ますか（創世記 35:6, 7; 使徒行伝 19:18-20）。

「神は自分の家族から悪を取り除こうとするヤコブの努力をお受け入れになった。そして彼に現れて、彼を祝福し、彼になされた約束を新たにされた。なぜなら、このお方の前に彼の恐れがあったからである。」（同上）

「魔術の書物を焼きなさい。それらの最後の一冊まですべて焼きなさい。すべてのものを焼きなさい。しかり、あなたと闇の権力との間のつながりを許すものは、燃やし尽くしなさい。『だから、「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。』（コリント第二 6:17)。これがわたしたちのなすべきことである。わたしたちは敬虔のうちに天の神にひれ伏さなければならない。』（説教と講和 2 巻 68）

個人的な復習問題

1. なぜ両親は、今日自分の子供や青年たちに対して大いに警戒している必要があるのですか。
2. どのように今日、デナの事情のような悲劇が起こりがちですか。
3. シテムの罪に対してシメオンとレビが扱った方法は、何が悪かったのですか。
4. なぜ世の前に正しい模範を示すことが、わたしにとって非常に重要なのですか。
5. わたし自身の家族の中で、どのような種類の改革を実行する必要がありますか。

家族における実

「もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従って来るがよい。そうすれば、わたしのおる所に、わたしに仕える者もまた、おるであろう。もしわたしに仕えようとする人があれば、その人を父は重んじて下さるであろう。」(ヨハネ 12:26)

「〔神の〕恵みの啓示を通して、かつては無関心で疎遠だった心が結合する。」(神の驚くべき恵 115)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 224-233

日曜日

9月6日

1. 悔い改めと回復

- a. 神に従おうとするヤコブの意図にも関わらず、長年のあいだ彼の家庭にはどの状況が存在していましたか。またなぜですか(箴言 26:21; 27:15)。

「ヤコブの罪とその罪への一連のできごとは、悪影響を及ぼさないわけにはいかなかった。それは、彼のむすこたちの性質とその生涯に苦い実となってあらわれるにいたった。このむすこたちが成人したころ、彼らの性質に重大な欠点があらわれた。一夫多妻の結果が家庭内に明らかに見られた。この恐ろしい悪は、愛の源泉そのものを枯らし、その影響は最も神聖なきずなを弱める。数人の母のねたみは、家庭の関係をみじめなものにした。子供たちは争い合い、他からのさしずを受けるのをきらって成長した。そして、父親の生涯は心労と悲しみにおおわれ、暗くなった。」(人類のあけぼの上巻 228)

- b. なぜ、家庭におけるヤコブの堅実な改革を主が尊ばれた方法は、今日、わたしたちの励ましとなることができるのですか(創世記 35:9-15; ヨハネ 12:26)。

「罪を捨て去り、それからすべての罪のしみを洗い去ることのできる全能者にすがりなさい。今、これがこの時の謙遜の働きである。そしてわたしたちは自分の罪を告白し、神にもっと近づかなければならない。こうしてこのお方が、わたしたちの名のところに『許し』を書き込むことができになるためである。」(原稿リ-ス9巻 252)

2. 旅路を前進する

- a. ラケルの死のタイミングは、どのように彼女を勝利者になさる神の力を示しましたか (創世記 35:16-20 (創世記 31:30, 32, 34; 35:4 参照))。
- b. 今日、わたしたちは深刻な霊的つまづきから、どの警告に注意すべきですか。どのように長子であるルベンの罪が、長子の祝福された特権を失わせる原因になりましたか (創世記 35:21, 22; 箴言 6:32, 33)。

「エフラタへ行く途中で、もう一つのかくれた罪悪がヤコブの家族を傷つけ、長子ルベンは、長子の特権と名誉とを失うにいたった。」(人類のあけぼの上巻 225)

「群れに対して牧者であり、また長年あわれみ深い神に忍ばれ、譴責、警告、嘆願をもって後を追われた者、しかし、自分たちの邪悪な道を隠し、その道のうちに居続け、こうして姦淫を行うことによって天の神の律法を無視する者に対して、わたしには本当の希望の根拠がない。わたしたちは、彼らを改革するためにすべてのことをなした後、彼らが恐れおののいて自分自身の救いの達成につとめるのに任せることはできるが、どんなことがあっても魂の保護を彼らにゆだねることはない。偽りの牧者たちよ！」(牧師への証 428)

- c. 対照的に、ヤコブは自分の最大の優先順位として神のみ旨を大事にしていました。彼は平安と繁栄の両方をもって、どのように祝福されましたか (創世記 35:27-29; 36:6, 7)。

「ヤコブとエサウは、父の臨終の床で出会った。かつて兄は、このときをふくしゅうの機会にしようとしていたのであったが、その後、彼の気持ちは大きく変わった。そして、ヤコブは、長子の特権の霊的祝福に満足して、父の富の継承を兄に譲った。エサウが求め尊んだ遺産もこれだけであった。彼らは、もう、ねたみや憎しみによって仲たがいをしてはいなかったが、彼らは別れて、エサウは、セイル山に移っていった。豊かな祝福をお与えになる神は、ヤコブが求めた更にすぐれたものをお与えになっただけでなく、それに加えて世の富もまたお与えになった。……こうして別れることは、ヤコブに関する神のみこころにかなったことであった。兄弟たちは、その信仰が著しく異なっていたから、彼らが別れて住むほうがよかったのである。」(人類のあけぼの上巻 226)

3. 選択はわたしたちのもの

- a. エサウが神の恵みの選択を拒んだことを考えるとき、わたしたちはもう一度どの訓告を強調すべきですか（ローマ 9:13）。

「エサウとヤコブは、同じように神の知識を授けられた。そして、ふたりは自由に神の戒めの道を歩いて、神の恵みにあずかることができたのである。しかし、彼らは、ふたりともそうしたわけではなかった。…

神が独断的選択を行ない、エサウを救いの祝福から閉め出されたというようなことはない。神の恵みの賜物はキリストによって、すべての者に分け隔てなく与えられている。人間が減じるのは、自分自身の選択によるのであって、そのように選ばれたのではない。神は、み言葉の中に、すべての魂が永遠の命に選ばれる条件をお示しになった。それは、キリストを信じる信仰によって、神の戒めに従うことである。神は、神の律法と一致した品性を選ばれるのであるから、だれでも神の要求される標準に達する者は、栄光の王国にはいることができる。…〔ヨハネ 3:36; マタイ 7:21 引用〕。そして、主は、黙示録のなかで言われる。『いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである』（黙示録 22:14）。人間の最後の救いについて、み言葉の中にあらわされている選びとは、これだけである。

おそれおののいて自分の救いを達成しようとする者はみな選ばれている。武具をまとって、信仰のよき戦いをする者は選ばれている。目をさまして祈り、み言葉を研究し、誘惑からのがれる者は選ばれている。常に信仰を持ち、神のみ口から出るすべてのことばに従おうとする者は選ばれている。贖罪の備えはすべての者に無代で与えられている。贖罪の成果は、条件に應じる者に与えられる。」（人類のあけぼの上巻 226, 227〔強調原文まま〕）

- b. ヤコブのように、わたしたちはいつも何を心にとめているべきですか（コリント第二 4:18）。

「エサウは契約の祝福を軽べつした。彼は靈的利益よりは、物質的利益を高く評価した。そして、彼は望んでいたものが与えられた。彼が神の民から離されたのは、彼自身が故意にそう選んだのであった。ヤコブは、信仰の遺産を選んだ。」（同上 227）

4. 親のえこひいきを避ける

- a. ヤコブはどのように自分のむすこヨセフに対して、賢明でない方法でふるまいましたか（創世記 37:3, 4）。

「[ヤコブのむすこの中で] …ラケルの長男ヨセフは、著しく異なった性質の持ち主であった。彼のまれに見る容貌の美は、彼の精神と心の内面的美の反映であった。ヨセフは純粋で、活動的で、歓喜にあふれていた。そして、道徳的にも真剣で堅固な性質をあらわしていた。彼は、父親の教えに耳を傾け、神に従うことを愛した。……ヤコブの心は、年をとってから生まれたこの子と堅く結ばれていた。彼は『他のどの子よりも』ヨセフを愛した。

しかし、この愛情さえ、悩みと悲しみの原因になった。不覚にも、ヤコブはヨセフに対する偏愛を表面にあらわして、他のむすこたちのねたみを起こさせた。」（人類のあけぼの上巻 229）

- b. わたし自身自身の態度は、どのように成長しつつある自分の子供たちの中に、品性の親切という資質を促進しますか（テモテ第一 5:21; ヤコブ 3:17）。

「神に偏愛はない。であるから、えこひいきや偽善がわたしたちの家庭や教会や施設に持ち込まれたり、保持されたりしてはならない。」（エリ・G・ホフ 1888 年原稿 1821）

- c. ヨセフは忠実で従順でまた多くの苦難を通して成長しました。しかし、ある子どもを他よりも甘やかしたり、ひいきしたりすることに対して、どの一般的な注意の言葉が、わたしたちすべての者に与えられていますか（イザヤ 3:4, 5）。

「あなたがたは両方とも自分の子供に対して盲目的で愚かな溺愛を与えてきた。あなたがたは彼女が自分の小さな手の中にたずなを握ることを許してきた。そして彼女は歩くことができる前に、あなたがた二人を治めていた。この過去を見ると、将来に何を期待できるであろうか。…あなたの子は決して今の習慣と気質では神の国を見ることはない。そしてあなたがた、彼女の両親こそ、彼女の前で天の門を閉ざした者である。そうであれば、あなたがた自身の救いに関してはどうなるであろうか?」（教会への証 4 巻 383）

5. 嫉妬の恨み

- a. ヤコブのむすこたちはどれほど深く自分の末っ子の兄弟ヨセフに対して苦々しい嫉妬というわなに落ち込んでいましたか(創世記 37:13-18, 24, 28, 31, 32)。

「〔ヨセフの〕兄弟たちはヨセフが近づくのを見た。彼が、彼らに会うために遠くから旅をしてきて疲れて、飢えているのであるから、兄弟の愛をもって喜んで迎えるべきであるにもかかわらず、彼らは激しい憎しみを和らげなかった。彼らは父の愛のしるしである上衣を見て、怒り狂った。『あの夢見る者がやって来る』と彼らはあざ笑って叫んだ。長い間ひそかにいっていたねたみとふくしゅうの精神が、今彼らを取りこにした。」(人類のあけぼの上巻 231)

- b. 嫉妬は何を引き起こしますか。また歴史上もっとも苦しい嫉妬の例証は何ですか(箴言 6:34, 35; マタイ 27:17-23)。

「キリストの生活全体と教えは、へりくだり、慈愛、徳、そして自己否定のたえざる教訓であった。これはユダヤ人によって表された自己義、厳しい精神に対するたえざる譴責であった。サタンは彼らを、キリストの素晴らしい働きを、すなわち民の注意を自分たちから引き離す働きを、単に述べるだけで激昂するかのようなどころまで導いていった。…このお方の慈しみ深さそのものが、このお方を彼らの嫉妬と憎しみの対象とした。そしてその盲目的な怒りのうちに、彼らは叫んでいった、彼を十字架につけよ!彼を十字架につけよ!と。」(霊的賜物 4A 巻 117)

個人的な復習問題

1. ヤコブの生涯は、すべての苦闘する家族にとって、どのように希望を提供しますか。
2. わたしの生涯におけるどの不可能な分野が、神に屈服することによって変わることが出来ますか。
3. ヤコブの過ちにもかかわらず、なぜわたしはエサウよりも彼を見習うべきなのか。
4. なぜわたしはえこひいきや偏愛や嫉妬を避けるために注意する必要があるのですか。
5. なぜ、わたしからすべての嫉妬の跡を根こそぎにさせていただくよう求めることが、きわめて重要なのですか。

辛抱強い祈りの結果

「父がその子供をあわれむように、主はおのを恐れる者をあわれまれる。」(詩篇103:13)

「いかなる世の中での親であっても、子供らの失敗やあやまちを神が救おうとされる人々を忍ばれるほどに忍ぶことは、とうていできない」(キリストへの道43)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 247-272

日曜日

9月13日

1. 嘆きの時

- a. ヨセフが死んだと思った時の、ヤコブの悲しみの深さ、また罪ある息子たちに与えた印象を描写しなさい(創世記 37:33-35)。

「[ヤコブの息子たち]は、この時の恐ろしさを予期してはいたが、父の心がはり裂けるばかりに苦しみ、悲しみの窮みに達して泣き叫ぶのを目撃しなければならぬとは思っていなかった。『わが子の着物だ。悪い獣が彼を食ったのだ。確かにヨセフはかみ裂かれたのだ』とヤコブは言った(創世記 37:33)。むすこや娘たちがどんなに彼を慰めようとしてもむだであった。ヤコブは、『衣服を裂き、荒布を腰にまとして、長い間その子のために嘆いた』(創世記 37:34)。時がたっても彼の悲しみは慰められなかった。『わたしは嘆きながら陰府に下って、わが子のもとへ行こう』と言って彼は嘆き悲しんだ(創世記 37:35)。むすこたちは、自分たちのしたことの恐ろしさを感じた。しかし彼らは父の譴責を恐れて、彼らの罪を心にかくしていた。それは自分たちにさえ、非常に大きな罪と思われたのである。」(人類のあけぼの上巻 233)

- b. わたしたちのうちに、どの悲しみが発達するように意図されていますか(ヤコブ 1:3, 4)。

「神は、わたしたちの愛を増し、わたしたちの神への信頼を完全にするために、わたしたちが試みられる状況下に置かれることを許される。…試練は来るであろう。しかし、それらはわたしたちが神の子であるという証拠である。」(福音宣伝者 441 (1892))

2. 恵みのうちに成長する

- a. ベテルにおいて自分と家族のために祈った苦悩の夜以来、ヤコブの品性は、どのように成長していましたか（詩篇 92:12-15）。

「ヤコブは、信仰の遺産を選んだ。彼は、策略と欺きと偽りによってそれを手にしたが、神は、彼の罪が矯正されていくことをお許しになった。ヤコブは、その後あらゆる苦い経験をなめたのであったが、自分の志をひるがえしたり、自分の選択を放棄したりはしなかった。彼は、人間の技巧や策略にたよって、祝福を得ようとすることは、神にさからっていることであることを学んだ。ヤコブは、ヤボクの渡して、夜、組打ちをしてからは全く変わった人になった。自己過信が根本からぬぎ取られた。それ以来、初めのころの狡猾さがみられなくなった。策略と欺瞞のかわりに、そばくと真実さが彼の生活にあらわれた。彼は、全能のみ腕にひたすらたよるという教訓を学んだ。そして、試練と苦難のただなかにあっても、心を低くして神のみこころに従った。彼の品性の卑しい性質は、炉の火で焼かれ、真の金が精練されて、アブラハムとイサクの信仰が、なんのかげりもなくヤコブのうちに見られるようになった。」（人類のあけぼの上巻 227, 228）

- b. ヤコブのどの嗣業を神はわたしたち家族のために意図しておられますか（イザヤ 8:16-18; 申命記 29:29）。

「父親はある意味では家族の祭司であり、神の祭壇に朝夕の犠牲を捧げ、また妻と子が祈りと賛美に加わる。そのような家庭にイエスはとどまられ、このお方の生き返らせる感化力を通して、両親の喜ばしい叫びがなお、より高められた光景のただ中で聞かれるであろう、『見よ、わたしと、主のわたしに賜わった子たちとは』。救われた、救われた、永遠に救われたのだ！世にある欲のために滅びることを免れ、キリストの功績を通して、不死の相続者とされた！わたしは自分の責任を自覚している父親がほとんどいないことを見た。彼らは自らを制することを学んでおらず、この教訓を学ぶまでは、自分の子供たちを治めることにおいて不十分な働きしかできない。完全な自制が、家族の上に魔法のように働く。これを習得するとき、大きな勝利が得られる。そのとき、彼らは自分の子供たちに自制を教育することができる。」（教会への証 1 巻 547）

3. もろい信仰の家族

- a. ヤコブの息子たちがエジプトの総督（彼らは知らなかったが実際にはヨセフ）の前に立ったとき、何が彼らの態度における変化を明らかにしましたか（創世記 42:21）。

「ヨセフが兄弟たちから離れていた年月の間に、ヤコブの子らは品性が変わっていった。彼らは、かつてはしつと心が強く、乱暴で、人をだまし、残酷で執念深かった。しかし、こうして逆境の中で試練にあったときに、彼らは無我の精神をあらわし、互いに真実で父に孝養をつくし、彼ら自身すでに中年に達していたが、父の権威に従うようになった。」（人類のあけぼの上巻 249）

「〔ヨセフ〕は兄弟たちの中に真の悔い改めの実をみることができた。」（同上 257）

- b. ヤコブとその子らの生涯における試練の長い年月の後、ついに父祖はどこへ行くように召されましたか（創世記 45:9, 25-28）。
- c. ヤコブはどのようにして初めてこれが彼のとらなければならない手段であることがわかりましたか。またなぜ主はそれを取り計らわれたのですか（創世記 46:1-5; 詩篇 103:13）。

「アブラハムに対してその子孫が星の数ほどになるとの約束が与えられたが、それでも選民の数はわずかずつしかふえてゆかなかった。それにカナンのもも預言されたような大いなる国民の発展には十分な土地ではなかつた。そこには強力な異教民族が住みついており、「四代目」になるまでは占領できないことになっていた。……また、カナンの人々に混じって生活すれば、偶像礼拝に誘いこまれる危険があつた。しかしながら、エジプトは神の御目的の成就に必要な条件がそなわつていたのである。灌漑もよく、肥沃なエジプトの一地区が彼らに開放され、そこは人口が急速に増加するのに好都合であつた。『羊飼はずべて、エジプトびとの忌む者』であるといわれて職業的反感にも、エジプトで当面するのであつたが、かえつてそのために、異なつた別の民族としての区別を保つことができ、エジプトびとの偶像礼拝に加わらずにすんだ。」（人類のあけぼの上巻 260）

4. 祝福された時

a. ヤコブとヨセフの再会を描写しなさい(創世記 46:28-30)。

「一行はエジプトに着いて、まっすぐにゴセンの地に向かった。ヨセフは、エジプトのつかさの乗る車に乗り、多くのいかめしい従者たちを従えて到着した。彼は、自分を取りまく華麗な光景も彼の威厳ある地位のことも忘れてしまった。彼は、ただ一つのことでは心がいっぱいになり、ただ一つの熱望に心をおどらしていた。彼は、旅人たちが近づいてくるのを見ると、長年の間心に秘めていた父を慕う気持ちを、もはやおさえることができなかつた。彼は馬車からとびおり、父のもとにかけよって歓迎した。」(人類のあけぼの上巻 261)

b. ヤコブと王の間の出会いを述べなさい(創世記 47:7-10)。

「ヤコブは、王の宮殿の中では一介の旅人にすぎなかつたが、荘厳な大自然の中で、地上の王にまさる天の王と交わっていた。そこで、ヤコブは、自分がすぐれた立場にあることを意識しつつ手を上げてパロを祝福した。」(同上)

c. エジプトにおけるヤコブの経験は、どのようなものでしたか(創世記 47:27, 28)。

「ヤコブは、ヨセフに再会したときに、今まで長い間の心労と悲哀とが、このように幸福な結末に至ったのだから、もう死んでもよいと言った。しかし、彼は、その後十七年間も生きながらえて、平和なゴセンの地で余生を送った。これらの年月は、かつての年月とは全くうって変わった幸福なものであった。ヤコブは、むすこたちの真の悔い改めの証拠を見だし、家族が大いなる国民になってゆくのに必要なあらゆる条件がそなわっているのを見た。そして、彼は、やがてカナンにおいて、彼らがりっぱな国を築いて行きたしかな約束を理解した。ヤコブ自身、エジプトの総理大臣のなしうる、あらゆる愛と好意のしるしにかまれていたのである。こうして、彼は長いあいだ失っていたむすこのもとで、幸福な日々を過ごし、静かに、そして平和に世を去った。」(同上 262)

d. エジプトにおけるヤコブの快適な時にもかかわらず、どの熱心な要求が、どれほど力強く彼の目的が神のみ約束に信頼することであったことを表しましたか(創世記 47:29-31)。

5. 将来に焦点を当てて

- a. ヨセフの息子たちに関して、何がヤコブの預言的な識別力を表していましたか（ヘブル 11:21; 創世記 48:8, 9, 17-19）。
- b. この預言はまもなく、どのように成就しましたか（民数記 1:33-35; 2:21, 24; 申命記 33:16, 17）。
- c. どのようにヤコブと彼の息子たちの経験は、今日わたしたちの刺激となりますか（ローマ 12:1, 2）。

「〔ヤコブ〕自身の中にある悪の力はうち破られ、彼の品性は一変した。…

ヤコブは、自分の一生の歴史をふりかえてみて、そこに神の力、すなわち『生れてからきょうまで わたしを養われた神、すべての災からわたしをあがなわれたみ使』のささえの力を認めた（創世記 48:15, 16）。

ヤコブの子供たちの 歴史の中には、同じ経験一罪の報いと、そしてまた義の実をむすんで生命にいたらせる悔い改めとがくりかえされている。

神は、ご自身の法律を取り消すようなことはなさらない。神は律法に反して行動するようなことはなさらない。神は罪の働きを白紙にかえすようなことはなさらないが、しかしそれを一変させたもうのである。神の恩恵によって、災いは福となるのである。」（教育 166）

個人的な復習問題

1. わたしがいま直面している試練は、何が本当の目的かもしれませんか。
2. 今日の父親たちのための神のご計画を述べなさい。
3. なぜ神の民にとってエジプトはちょうどよい場所だったのですか。しかし、なぜ一時的のみだったのですか。
4. エジプトにいた短期間におけるヤコブの繁栄から、わたしは何を学ぶべきですか。
5. 強情なわたしの家族のメンバーは、ヤコブの家族のように、どのように変わることが出来ますか。

イスラエルの残りの民のための希望

「主が悩みの日にあなたに答え、ヤコブの神のみ名があなたを守られるように。」(詩篇 20:1)

「ヤコブのように、祈りのうちに格闘しなさい。身を悩ませなさい」(教会への証 1巻 158)

参考文献： 教会への証 1巻 158-160; 3巻 540-544

日曜日

9月20日

1. 最後の証

a. ヤコブは自分の息子たちに、どの最終的なメッセージを与えましたか(創世記 49:1, 2)。

「[ヤコブの] むすこたちが、最後の祝福を受けようと待っているとき、主の靈感がヤコブに臨み、預言的な幻のうちに彼の子孫の将来が示された。次々とむすこの名があげられ、各自の性質が描写されて、部族の未来の歴史が簡潔に預言された。」(人類のあげばの上巻 264)

「[ヤコブには]、自分の悲しんでいる子供たちに対する憤慨の気持ちはなかった。しかし、預言の霊によって神はヤコブの思いを彼の生来の感情から高められた。この最後の時に、御使たちは彼の周囲を取り囲んでいた。そして神の恵みの力が彼の上に輝いた。彼の親としての気持ちは、死の床の証において、ただ愛情とやさしさの表現を口にするように導いたことであろう。しかし、靈感の感化の下、彼は苦痛を伴っても、真理を語った。」(霊的賜物 3巻 172, 173)

b. ヤコブの最後の要求は、かつては憎んだ自分の最初の妻に関して神の力強い恵みが驚くばかりに父祖の心に触れた方法を、どのように明らかにしていますか(創世記 49:28-31)。

2. 精錬者の火

- a. ヤコブの生涯の終わりと彼の周囲にいるエジプト人を含めた人々に残した深い印象を述べなさい(創世記 49:33; 50:1-3)。彼はまたわたしたちに、どのような靈感を与える嗣業を残しましたか。

「ヤコブは、罪を犯して非常に苦しんだ。彼は大きな罪を犯して父の天幕を離れて以来、悩み、苦しみ、悲しみの長い年月を過ごした。彼は家のない逃亡者となり、母から離れ、しかもふたたびその母に会うことができなかった。彼は、七年間も愛するラケルのために働いたが、卑劣な方法でだまされた。二十年もの間、貪欲で、利己的な親族のために苦労した。やがて、自分の富も増し、むすこたちの成長を見ることができたが、争いが絶えず分裂した家庭の中には少しの喜びも見いだすことができなかった。娘の受けたはずかしめ、それに対する兄弟たちのふくしゅう、ラケルの死、ルベンの人の道に反した罪悪、ユダの罪、そして兄弟たちのヨセフに対する残酷な欺瞞と恨みによる苦悩など、なんと長く、暗い罪悪の数々が彼の目の前に広がったことであろう。ヤコブは、いくどとなく、彼の最初の失敗の実を刈り取ったのであった。彼は幾たびも自分自身の犯した罪を、そのむすこたちがくりかえすのを見た。しかし、このようなこらしめは苦しかったが、その目的を果たしたのである。訓練は悲しいものと思われたが、『平安な義の実を結』んだのである(ヘブル 12:11)。」(人類のあけぼの上巻 268, 269)

- b. わたしたちの生涯は、ヤコブの生涯のように、どのように平和な義の実を結ぶことができますか(ヘブル 12:7-11; ペテロ第一 4:12, 13)。

「あなたを狭いところを通して導いて来られたのは神であられる。このお方にはそこに目的があった。それは患難があなたのうちに忍耐を生み出し、忍耐は錬達を、錬達が希望を生み出すためであった。このお方は試練があなたに臨むことを許される。それは、それらを通して、あなたが平安な義の実を経験するためであった。」(教会への証 3 巻 416)

「ここでわたしたちの上に降りかかる苦難や試練が許されているのは、わたしたちに対する〔神の〕愛のご目的、すなわちわたしたちを『そのきよさにあずからせるために』、ひいてはこのお方のご臨在のうちに見いだされる満ち満ちた喜びにあずかるようになるためである。」(同上)

「教育者として受けるすべての試練は喜びを生み出す。」(同上 6 巻 365)

3. 実を結ぶようにとの召し

- a. ヤコブの嗣業に対する神の約束は、どれほど力強いものですか（レビ記 26:42; 申命記 32:9, 10）。

「神は、イスラエルの民が、神のみ名の栄えとなり、周囲の国民の祝福となるように、彼らにあらゆる便宜をはかり、あらゆる特権をお与えになった。もし彼らが、従順の道を歩むなら、『主は誉と良き名と栄えとをあなたに与えて、主の造られたすべての国民にまさるものとされる。』（教育 33）

「わたしたちに、自分の欠乏を認めながら、ヤコブのように真剣な信仰のうちに神に嘆願する人がいれば、わたしたちは同じ結果を見ることになる。」（教会への証 4 巻 402）

- b. 神の誤っている民に対する神の愛の深さを描写しなさい。また何がわたしたちに考えるために立ち止まらせるべきですか（エレミヤ 31:18-20; ホセヤ 11:8, 9）。

「神は、その大いなるあわれみによって、あなたを切り倒されなかった。神はあなたを冷たく見ておられるのではない。神は顔をそむけてなんの関心をももたず、あなたを滅びるままにしておかれるのではない。」（キリストの実物教訓 197）

- c. キリストに従う人々の特権を説明しなさい（テモテ第二 1:8-10; 詩篇 20:1, 2）。

「わたしたちはかすが焼き尽くされて、精錬され、神聖なみかたちを反射するようになるまで、炉の中を通らなければならない。自分の傾向に従い、見かけに支配される人々は、神がなさっていることを正しく判断できない。彼らは不満に満たされる。彼らは実は勝利のあるところに失敗を見る。また得るところで大損失を見る。そしてヤコブのように、自分たちのつぶやいている対象そのものが、万事益として働いている時に、『これらはみなわたしの身にふりかかって来るのだ』と叫ぶばかりである。

十字架がなければ、冠はない。試練なくして、いかに人は主にあつて強くなれるであろうか。強さを得るためには運動が必要である。強い信仰を持つためには、わたしたちの信仰が働くようになる状況に置かれなくてはならない。」（教会への証 3 巻 67）

4. 失われる者の運命を避ける

- a. わたしたちを剪定なさるために、神はどのようにご自分の言をお用いになるか、またこの工程に服することを拒む深刻な結果を説明しなさい（ヘブル 4:12-14; ホセヤ 4:17）。

「神はご自分の民を一步一步導かれる。このお方は心の中に何があるかを表すように意図された様々な地点へと導いていかれる。ある人はある点は耐えるが、次で倒れる。一つ進むごとに、心はより厳密にためされ、試みられる。神の民だと公言するものが自分の心の中にこの厳しい働きに反対するものを見出すとき、主の口から吐き出されたくなければ、自分たちに勝利すべき働きがあることを確信すべきである。御使が次のように言った、『神はご自分の働きをご自分の民の一人ひとり进行测试し、試すためにより厳密にしていこうとしておられる。ある者はある点を喜んで受け入れる。しかし、神が彼らを他の試す点に導かれるとき、彼らはそれにしり込みし、後ずさりする。なぜなら、それが直接自分たちの大事にしている偶像を打つことがわかるからである。ここに彼らが自分の心の中にイエスを締め出しているものを認める機会がある。彼らは何かを真理よりも高く評価しており、彼らの心はイエスを受け入れる準備ができていない。』個人個人がある一定期間、自分の偶像を犠牲にして真の証人の勧告に注意を払うかを調べるためにテストされ、試される。もし真理に従うことによって清められず、自分の利己心、自分の誇りや悪感情に打ち勝たない人があれば、神の御使たちは次のように宣告する。『彼らは偶像に結びつらなつた。そのなすにまかせよ』。そして彼らは自分たちの働きを続け、これらの自分の罪深い特質を制しない人々を悪天使たちの支配に残していく。すべての点に導かれ、すべてのテストに耐え、勝利する人々は、その代価が何であろうと真の証人の勧告に注意を払ってきた。そして彼らは後の雨を受け、こうして昇天にふさわしいものとされる。」（教会への証 1 巻 187）

- b. ヤコブのむすこダンのどの罪が、神の是認の印を受けるのを妨げますか（創世記 49:17; 詩篇 15:1-3）。

「中傷する者は神の幕屋に宿り、シオンの聖なる丘に宿ることから除外される。自分の隣人に対する譴責を取り上げる人は、神の是認を受けることができない。」（教会への証 5 巻 615）

「失望させる言葉を語ることに對して警戒しよう。悪口と中傷にたずさわることは決してしないと決心しよう。」（わたしたちの高い召し 291）

5. 残りの民のための贖い

- a. 今日、霊的なイスラエルは、どのように特権と危険に直面していますか（詩篇 47:1-4; 46:11; ローマ 13:11）。

「これらの教会のある者たちは、この世の生活のわずらいと世俗的な思いがあまりにも思いを占め、神や天また自分自身の魂の必要を考えられないという継続的な危険の中にいる。彼らは自分たちの無感覚状態からときおり目覚めるが、再び深い眠りに落ち込む。彼らが完全に自分たちの眠りから目覚めなければ、神はご自分が彼らにお与えになった光と祝福を取り除かれる。このお方は怒りのうちに燭台をその場所から取り除かれる。このお方はこれらの諸教会をご自分の律法の保管者となさった。もし彼らが罪を拒み、活動的で熱心な敬神によって、堅実性と神のみ言葉の規則に対する従順を表し、そして宗教的な義務を忠実に果たすならば、彼らは燭台をその場所に確立するのを助け、万軍の主が彼らと共におり、ヤコブの神が彼らの避け所であるという証拠を持つのである。」（教会への証 4 巻 286）

- b. ヤコブの残りの民のための希望は、ただ一つなのですか（ローマ 11:5; イザヤ 14:1; 41:14; 43:1）。

「受ける特権に恵まれてきた大いなる真理と共に、わたしたちは光の生きた通路となるべきであるし、聖霊の力の下でそうなることができる。そのとき、わたしたちは恵みの御座に近づくことができ、約束の虹を見ることができ、悔いた心でひざまずき、報いをもたらさずにはいない霊的な暴力をもって天の御国を求めることができる。わたしたちはそれをヤコブのように力づくで奪うのである。そのとき、わたしたちのメッセージが救いに至る神の力となる。」（神の息子娘たち 30）

個人的な復習問題

1. ヤコブがレアに対してしたように、神はどのようにわたしが自分の態度を変えるように望んでおられますか。
2. わたしが次回、ただならぬ試練に直面する場合、何を心に覚えていなければなりませんか。
3. 神はわたしがもっと感謝すべきどのような特権を、わたしに授けてくれましたか。
4. 最終的な残りの民が勝利しなければならない巧妙なわなを、いくつか挙げなさい。
5. これらの教訓からつかむべき、ヤコブの最も重要な資質は何ですか。

第一安息日献金



7月4日

中央アメリカ北部ミッションプロジェクトのために
(4 ページ参照)

8月1日

カザフスタン、アルマティの
本部のために
(25 ページ参照)



9月5日

教育支部のために
(51 ページ参照)

